松江市文化財調査報告書第50集

文化財愛護
シンボルマーク

二名留古墳群発掘調査報告書

1992年3月

松江市教育委員会

2号墳出土子持勾玉（実物大）

例　　言

1．本書は，昭和54年度，63年度，平成３年度において松江市教育委員会が実施した二名留古墳群発掘調査にかかる報告書である。

2．本調査のうち，２号墳，３号墳は松江市教育委員会が有限会社松雲土木の委託を受けて実施したものである。また，１号墳については本市教育委員会において単独で発掘調査を実施したものであるが，許可を得て本書に掲載するものである。

3．調査の組織は下記のとおりである。

委託者	有限会社松雲土木	代表取締役	信高　由子（昭和63，平成３年度）
受託者	松江市代表者	松江市長	中村芳二朗（昭和63年度）
			石倉　孝昭（平成３年度）
主体者	松江市教育委員会	教 育 長	内田　　榮（昭和54，63年度）
			諏訪　秀富（平成３年度）
		教育次長	吉田　　龍（昭和54年度）
			菊池　義治（昭和63年度）
			北村　悦男（平成３年度）
		社会教育課長	石飛　　進（昭和54年度）
			野津　久夫（昭和63年度）
			杉原　精訓（平成３年９月まで）
		文化課長	中西　宏次（平成３年10月から）
		文化係長	足立　千利（昭和54年度）
			岡崎雄二郎（昭和63，平成３年９月まで）
		文化財係長	岡崎雄二郎（平成３年10月から）

調査担当者および調査者

（昭和54年度）　岡崎雄二郎（文化係主事），中尾秀信（同），昌子寛光（補助員），青木　博（同）

（昭和63年度）　飯塚康行（文化係主事），寺本　康（同）

（平成３年度）　飯塚康行（文化財係主事），中尾秀信（同），宮本英樹（同），富田茂雄（指導員），稲田　奨（嘱託員），山尾絹江（同），坂本泰敏（臨時職員）

4．調査の実施にあたっては，次の方々の指導と協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。

調査指導　山本 清氏（島根大学名誉教授），三浦 清氏（島根大学教授），勝部 衛氏（玉湯町立玉作資料館館長補佐），片岡詩子氏（玉湯町教育委員会主任主事），平野芳英氏（八雲立つ風土記の丘学芸主任），松本岩雄氏（島根県教育委員会文化課埋蔵文化財第３係長），卜部吉博氏（島根県教育委員会文化課埋蔵文化財第２係長），今岡一三氏（同主事），丹羽野裕氏（島根県教育委員会文化課文化財管理指導係主事），三宅博士氏（安来市教育委員会生涯学習課文化係長心得兼主任），杉谷愛象氏（米子市教育委員会社会教育課主任）

調査協力　雲山採俊（有限会社松雲建設興業），柴田啓典（同），磯遊明夫（有限会社松雲土木），船木一博（同）

5．出土遺物はすべて松江市教育委員会で保管している。

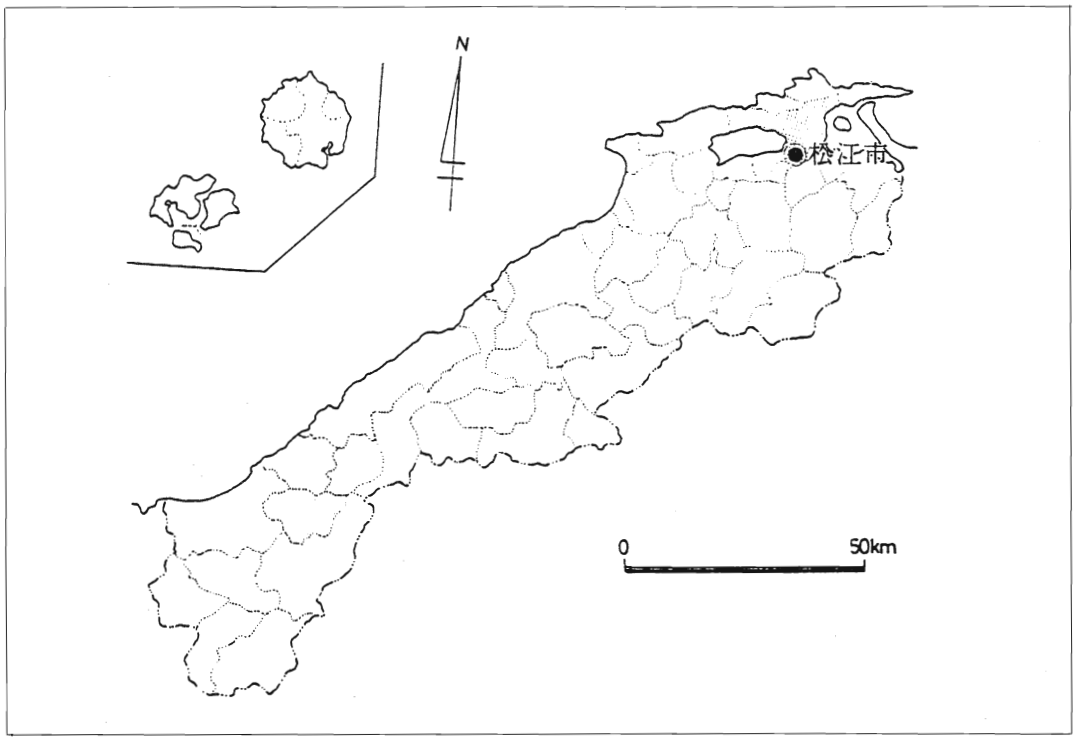
6．本書の編集及び執筆，図面の浄書等は飯塚，中尾がこれを行った。

文化財愛護シンボルマークとは……

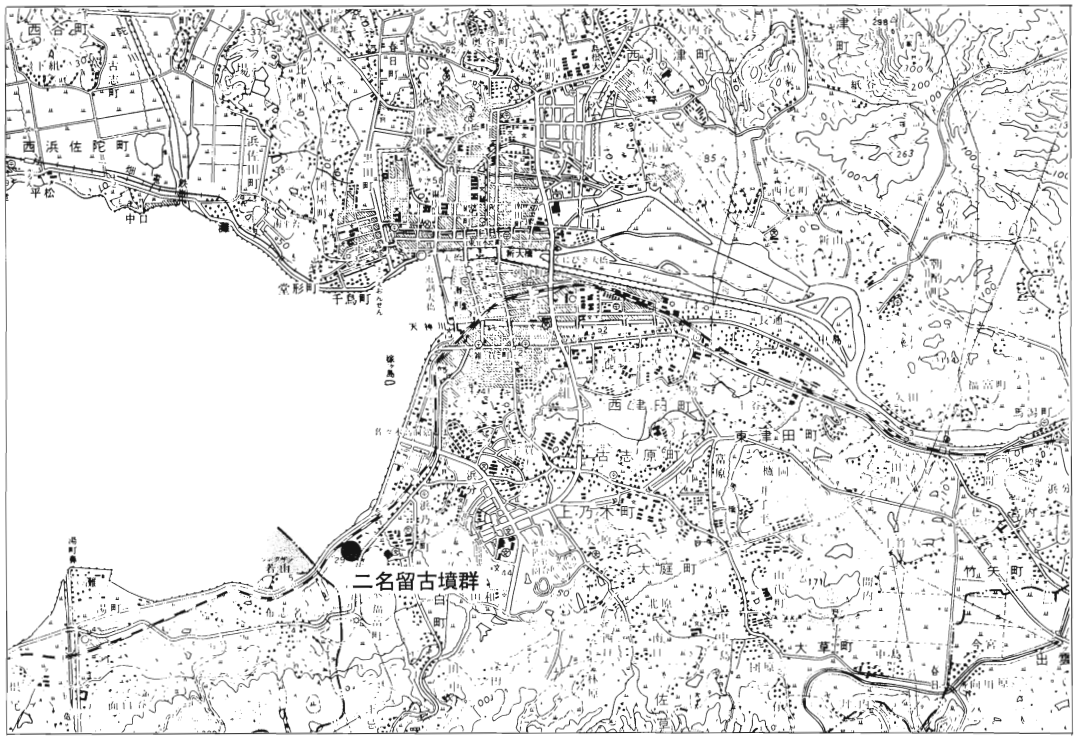
このマークは昭和41年５月26日に文化財保護委員会（現文化庁）が全国に公募し、決定した文化財愛護の運動を推進するためのシンボルマークです。

その意味するところは、左右にひろげた両手の掌が、日本建築の重要な要素である斗栱（ときょう）、すなわち斗（ます）と栱（ひじき）の組み合わせによって全体で軒を支える腕木の役をなす組物のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財というみんなの遺産を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承していこうというものです。

文化財愛護
シンボルマーク



（島根県地図）



（松江市地図）

目　　次

1．調査に至る経緯 …… 4

2．周辺の歴史的環境 …… 4

3．調査の概要

(1)　1号墳の調査 …… 7

(2)　2号墳の調査 …… 18

(3)　3号墳の調査 …… 36

4．考　　察

(1)　子持勾玉について …… 46

(2)　主体部について …… 46

(3)　築造年代について …… 47

5．小　　結 …… 49

2号墳現地説明会風景　H 3.9.1

1．調査に至る経緯

二名留古墳群は松江市乃木福富町字二名留，忌部川下流西方に南北にのびる丘陵上に所在する。昭和54年民間による宅地開発が行われた際，５月18日に石棺が発見されたことを契機に周知されるようになった。

本古墳群は丘陵が宍道湖岸にのびた先端部分に３基存在し，先端部に位置する古墳から順に１号墳，２号墳，３号墳と命名された。

石棺が発見された１号墳は昭和54年５月20日から同年５月26日までの計７日間で緊急調査が実施された。

その後昭和63年に有限会社松雲土木によって住宅団地の造成が計画された際に２号墳，３号墳が区域内に含まれていたが，早急に調査に対応できないため，古墳部分を暫定的に残して工事が進められていた。しかし，平成元年２月に入って長雨の影響で３号墳を保護するコンクリート擁壁に亀裂が生じ，２月28日に擁壁が崩壊する結果となった。そのため古墳の本体に影響が生じると判断された３号墳の北半分部分について緊急調査を実施した。期間は平成元年３月８日から同年３月17日までの計８日間である。

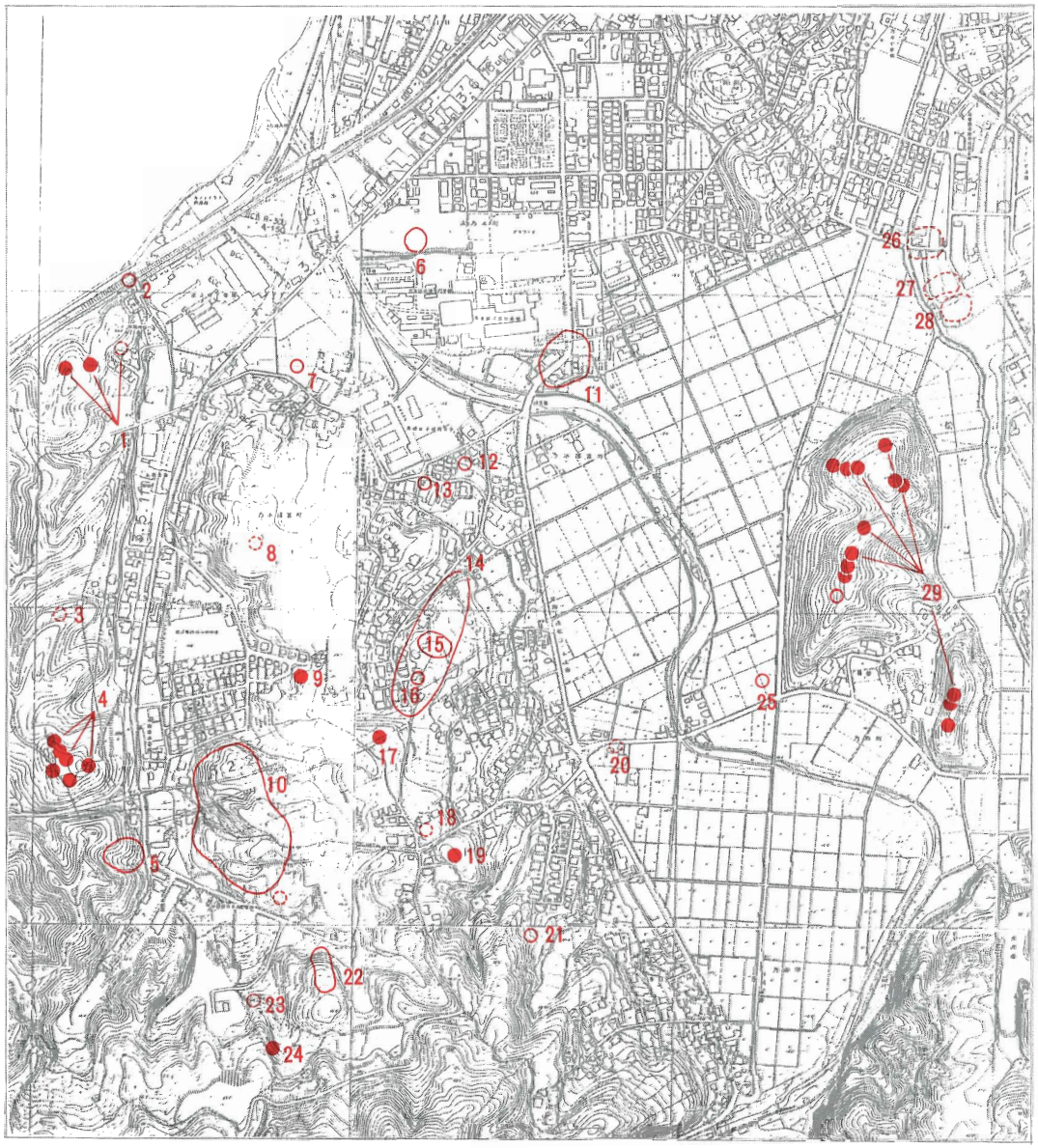
その後平成２年10月に入って住宅団地造成のⅡ期工事にかかる開発協議があり，平成３年３月から工事に着手することとなった。これに際して３号墳の南半分と２号墳の発掘調査を実施することとなった。３号墳は平成３年５月７日から同年６月６日までの計15日間，２号墳は平成３年６月７日から同年９月11日までの計40日間である。

2．周辺の歴史的環境

二名留古墳群（1）は松江市乃木福富町字二名留に所在する。

遺跡は松江市と玉湯町の境を宍道湖岸に向かって南へのびる丘陵の南端上に位置する。周囲は東西は狭い谷を隔ててすぐ南北に走る丘陵に挟まれ，平野を望むことはできないが，北西方向眼下に広がる宍道湖を見渡す景勝の地にある。

乃木地区周辺における遺跡については不明な点が多いが，その様相を出土遺物から推定すると，廻田遺跡（8）出土のナイフ型石器が注目され，人々の生活は旧石器時代にまでさかのぼるものと推定される。



第3図　周辺の遺跡

1. 二名留古墳群　2. 福富湖岸遺跡　3. 大角山遺跡　4. 大角山古墳群　5. すべりざこ横穴群
6. 欠田遺跡　7. 神立遺跡　8. 廻田遺跡　9. 森木谷古墳　10. 松本古墳群　11. 福富Ⅱ遺跡
12. 蓮花垣遺跡　13. 屋形遺跡　14. 松本遺跡　15. 福富Ⅰ遺跡　16. 乃白玉作跡　17. 屋形古墳
18. 松本修法壇跡　19. 天場古墳　20. 乃白遺跡　21. 乃白権現遺跡　22. 弥陀原横穴群
23. 松本横穴群　24. 岩屋口古墳　25. 薬師前遺跡　26. 向原古墳群　27. 友田遺跡
28. 南友田遺跡　29. 田和山古墳群

第１表　周辺の遺跡一覧表

No.	名　　称	所　在　地	種　別	概　　要
1	二名留古墳群	松江市乃木福富町	古 墳 群	方墳2基、円墳1基
2	福富湖岸遺跡	〃	散 布 地	有舌尖頭器
3	大角山遺跡	〃	玉 作 跡	住居跡2棟、玉作工房跡3棟
4	大角山古墳群	〃	古 墳 群	7基（前方後円墳、円墳、方墳）
5	すべりざこ横穴群	松江市乃白町	横 穴 群	2穴以上
6	欠田遺跡	松江市乃木福富町	散 布 地	石包丁、弥生土器片、土師器片他
7	神立遺跡	〃	〃	弥生土器片
8	廻田遺跡	〃	住 居 跡	ナイフ型石器、竪穴住居跡1、円墳1基
9	森木谷古墳	〃	古　　墳	円墳1基
10	松本古墳群	松江市乃白町	古 墳 群	
11	福富Ⅱ遺跡	松江市乃木福富町	散 布 地	石斧
12	蓮花垣遺跡	〃	〃	石臼、叩き石
13	屋形遺跡	〃	〃	砥石、石斧、須恵器
14	松本遺跡	〃	〃	めのう、須恵器
15	福富Ⅰ遺跡	〃	〃	石斧
16	乃白玉作跡	松江市乃白町	玉 作 跡	砥石
17	屋形古墳	松江市乃木福富町	古 墳 群	方墳1基以上
18	松本修法壇跡	松江市乃白町	修法壇跡	修法壇、五輪塔
19	天場古墳	松江市乃木福富町	古 墳 群	方墳1基以上
20	乃白遺跡	松江市乃白町	散 布 地	石斧
21	乃白権現遺跡	〃	玉 作 跡	めのう片、土師器、須恵器
22	弥陀原横穴群	〃	横 穴 群	3穴、須恵器、土師器、石棺、人骨
23	松本横穴群	〃	横 穴 群	約10穴
24	岩屋口古墳	〃	古　　墳	横穴式石室
25	薬師前遺跡	〃	散 布 地	弥生土器、土師器、須恵器
26	向原古墳群	松江市上乃木町	古 墳 群	方墳2基、円墳2基、鉄剣、鉄鏃、須恵器
27	友田遺跡	〃	墳　　墓	土壙墓26基、墳丘墓6基、四隅突出型1基 石鏃、勾玉、管玉、弥生土器
28	南友田遺跡	〃	住居跡？	石鏃、弥生土器、須恵器
29	田和山古墳群	松江市乃木福富町 浜乃木町、乃白町	古 墳 群	前方後方墳1基、前方後円墳1基、方墳8基、円墳2基、乃白社跡1所

縄文時代に入ると宍道湖岸の福富湖岸遺跡（2）出土の有舌尖頭器が知られているが，旧石器～縄文時代の様相については，松江市内を見渡してみてもまだ資料に乏しく，不明な点が多い。

弥生時代に入ると欠田遺跡（6）が知られている。本遺跡は忌部川下流の自然堤防上にあり，石包丁をはじめ弥生時代前期から古墳時代前期の壺や甕が出土していることから，この頃には人々は水田を作り，農業生産力を基盤として安定した生活を営み始めていたことが知られ，村の長は経済的，政治的に権力をのばしていったものと推定される。こうした様相は，浜乃木町に所在する友田遺跡（27）の墳丘墓群，土壙墓群，四隅突出型墳丘墓にもよくあらわれている。

古墳時代に入ると，乃木地区では前期古墳は発見されておらず，様相は不明であるが，中期になると乃木地区においても古墳が作られるようになる。大角山古墳群（4）はこの頃に築造された古墳群であると推定され，全長61.4mを測る大型の前方後円墳を中心として合計７基が存在する。一方花仙山を中心として，玉湯川，忌部川流域では古墳時代前期頃から花仙山産出の碧玉，めのうを原石とした玉作りが始まっており，乃木地区においても，３棟の玉作り工房跡が発見された大角山遺跡（3）をはじめ，松本遺跡（14），乃白権現遺跡（21）から出土した多くの玉原石，未製品，砥石類が知られている。

古墳時代後期に入ると，浜乃木町に所在する独立丘陵上に田和山古墳群（29）がある。本古墳群は横穴式石室を持つ全長20mの前方後円墳を中心として合計12基からなることが知られ，依然として乃木地区で勢力を伸ばす豪族がいる一方で，弥陀原横穴群（22），松本横穴群（23），すべりざこ横穴群（5）などに見られるように，農業生産力を基盤としてしだいに経済力を蓄積していった有力農民層もあったことが考えられる。

奈良時代以降ではほとんど遺跡が見つかっておらず，中世末～近世初頭の松本修法壇跡（18）が知られる程度で様相は不明である。

3．調 査 の 概 要

(1)　１号墳の調査

１号墳は古墳群が存在する丘陵先端部の尾根筋を少し外した山寄せの形態で立地する。既に古墳の東半分が失われていたので，残った墳丘部分にＬ字型にトレンチを設定して地山面まで掘り下げた。また周濠の有無を確認するため，墳裾部分も平行して掘り下げた。

第 4 図　1 号墳墳丘測量図

ア．墳丘について

調査の結果，推定一辺13mを測る方墳であることがわかった。

墳丘の築造方法は，旧地表面から周濠を掘り，一辺13mの方形の墳丘基盤を形成し，地山上に箱式石棺を組み立ててその上に最大90cmの盛土を施して整形したものと考えられる。墳丘掘削時の出土遺物はなかった。

イ．周濠について

墳丘西側で周濠が確認された。

周濠は山側部分でよく残り，最大幅 5 m，深さ30cmを測る。周濠内側ラインは南西部，

第5図　二名留古墳群全体図

北西部ともにほぼ直角に屈曲しており，本墳が方墳であることをよくあらわすが，周濠外側ラインはゆるやかにカーブしており，山裾に向かって周濠はしだいに不明確となる。周濠掘削時の出土遺物はなかった。

ウ．主体部について

本墳の主体部には長辺を南北方向にあわせた来待石製の箱式石棺を持つ。丘陵斜面の南西寄り部分の地山を削り取って平坦面をつくり，そこを20cmほど掘り込んで安置する。石棺周辺には来待石の破片が散布しており，現地で加工して組み立てたことが考えられる。

この箱式石棺は，内法で長さ190cm，南端幅65cm，北端幅50cm，深さ43cmを測り，３枚の床石を置いた後，両小口部分にそれぞれ１枚石の小口板を立て，両側面をそれぞれ３枚の板石を継いだ側板で挟み，その上に蓋石を置く。蓋石は壊れていたが，本来は２枚継ぎであったと推定される。裏面に刳り込みは見られなかった。石材はいずれも平滑に加工しており，極めて整美なものである。

石棺内棺底の出土遺物としては，南東隅に天地逆転に伏せて須恵器高坏１（№１），北西隅に鉄製短刀１（PL－23，№18），北東隅に鉄製刀子１（№17），鉄鏃５本（№７～№11），南西隅に鉄鏃５本（№12～№16）がある。また注目される点としては，南西隅と北東隅の２箇所で赤色顔料が検出された。石棺外の出土遺物としては，蓋石南辺に接して須恵器提瓶１（№２）がある。

エ．出土遺物について

PL－23，№18　石棺内棺底北西隅で検出された短刀である。全長37cm，最大刃幅３cmを測り，８cmほどの把に6.4cm×4.8cmの楕円形の鍔を付ける。

1　石棺内棺底南東隅で検出された須恵器の高坏である。天地を逆転させて伏せた状態で検出された。口径12.2cm，底径11.4cm，器高15.8cmを測る。坏部外面には２条の稜と２条の刺突文を施し，脚部には上下２段にそれぞれ４方向から三角形の透かし穴を穿つ。

2　石棺外蓋石南辺に接して出土した須恵器の提瓶である。口径6.9cm，器高17.6cmを測る。肩部にやや退化した把手を付ける。胴部には意図的に打ち欠いたと思われる穴が空いている。

3　墳丘調査時に検出された須恵器の蓋である。№４とセットをなすものと思われる。口径13.6cm，器高4.5cmを測る。やや高い天井部から口縁部にかけてなだらかに下り，口縁部に至る。天井部外面に回転ヘラケズリを施し，口縁部外面には一条の沈線を巡らす。

4　墳丘調査時に検出された須恵器の坏身である。№3とセットをなすものと思われる。口径11.3cm，器高3.6cmを測る。立ち上がりは内傾して短くのびる。口縁端部はまるく，坏底部外面に回転ヘラケズリを施す。

5　墳丘調査時に検出された須恵器の坏身である。口径11.1cm，器高3.9cmを測る。立ち上がりは内傾して短くのびる。口縁端部はまるく，坏底部外面に回転ヘラケズリを施す。

6　墳丘調査時に検出された須恵器の台付壺と思われる底部破片である。底径11.5cmを測る。底部外面に回転糸切り痕が残る。

7　石棺内棺底北東隅で検出された鉄鏃である。全長13.2cmで，長さ6.9cm，幅2.2cm，厚さ0.6cmの身に2.1cmの逆棘を付ける。

8　石棺内棺底北東隅で検出された鉄鏃である。全長12.3cmで，長さ7.3cm，幅2.0cm，厚さ0.6cmの身に2.4cmの逆棘を付ける。

9　石棺内棺底北東隅で検出された鉄鏃である。全長10.7cmで，長さ7.6cm，幅2.0cm，厚さ0.6cmの身に残存長1.5cmの逆棘を付ける。

10　石棺内棺底北東隅で検出された鉄鏃である。全長13.5cmで，長さ8.6cm，幅2.5cm，厚さ0.6cmの身に1.7cmの逆棘を付ける。

11　石棺内棺底北東隅で検出された鉄鏃である。全長12.0cmで，長さ7.6cm，幅2.2cm，厚さ0.5cmの身を持ち，本来逆棘を付けていたものと考えられるが，欠損しており，不明である。

12　石棺内棺底南西隅で検出された鉄鏃である。先端部を欠損し，残存長10.1cmで，長さ6.9cm，幅2.2cm，厚さ0.4cmの身に0.5cmの短い逆棘を付ける。

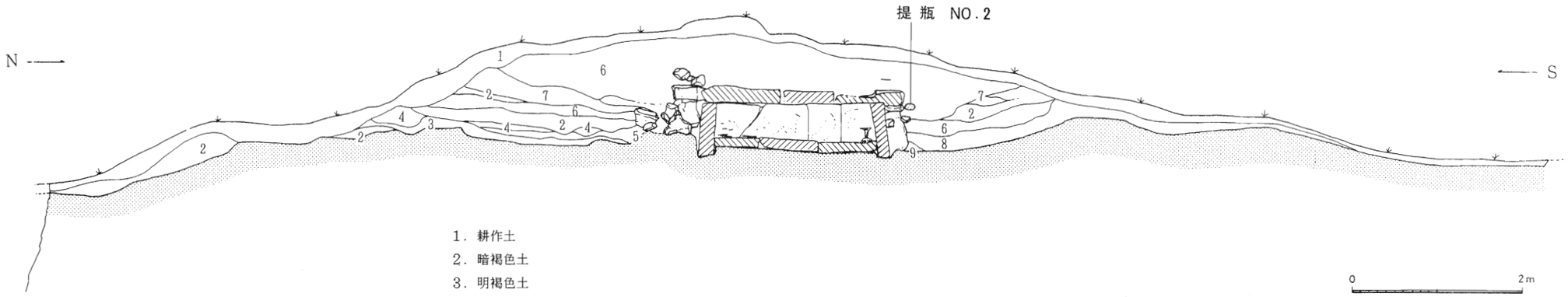
13　石棺内棺底南西隅で検出された鉄鏃である。全長11.8cmで，長さ7.2cm，幅1.9cm，厚さ0.3cmの身を持ち，本来逆棘を付けていたものと考えられるが，欠損しており，不明である。

14　石棺内棺底南西隅で検出された鉄鏃である。全長12.7cmで，長さ7.8cm，幅2.1cm，厚さ0.4cmの身に0.5cmの短い逆棘を付ける。

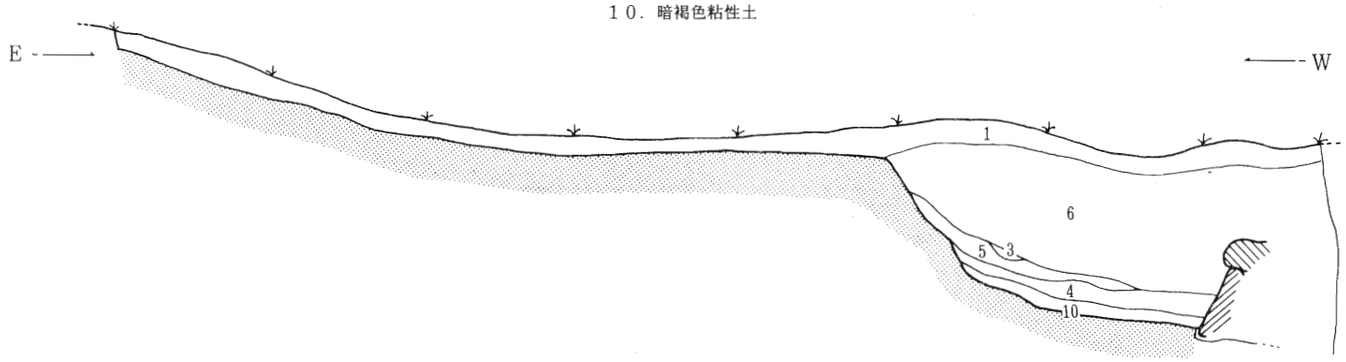
15　石棺内棺底南西隅で検出された鉄鏃である。全長12.6cmで，長さ7.2cm，幅2.2cm，厚さ0.4cmの身に0.9cmの短い逆棘を付ける。

16　石棺内棺底南西隅で検出された鉄鏃である。全長12.0cmで，長さ7.2cm，幅2.1cm，厚さ0.4cmの身に0.6cmの短い逆棘を付ける。

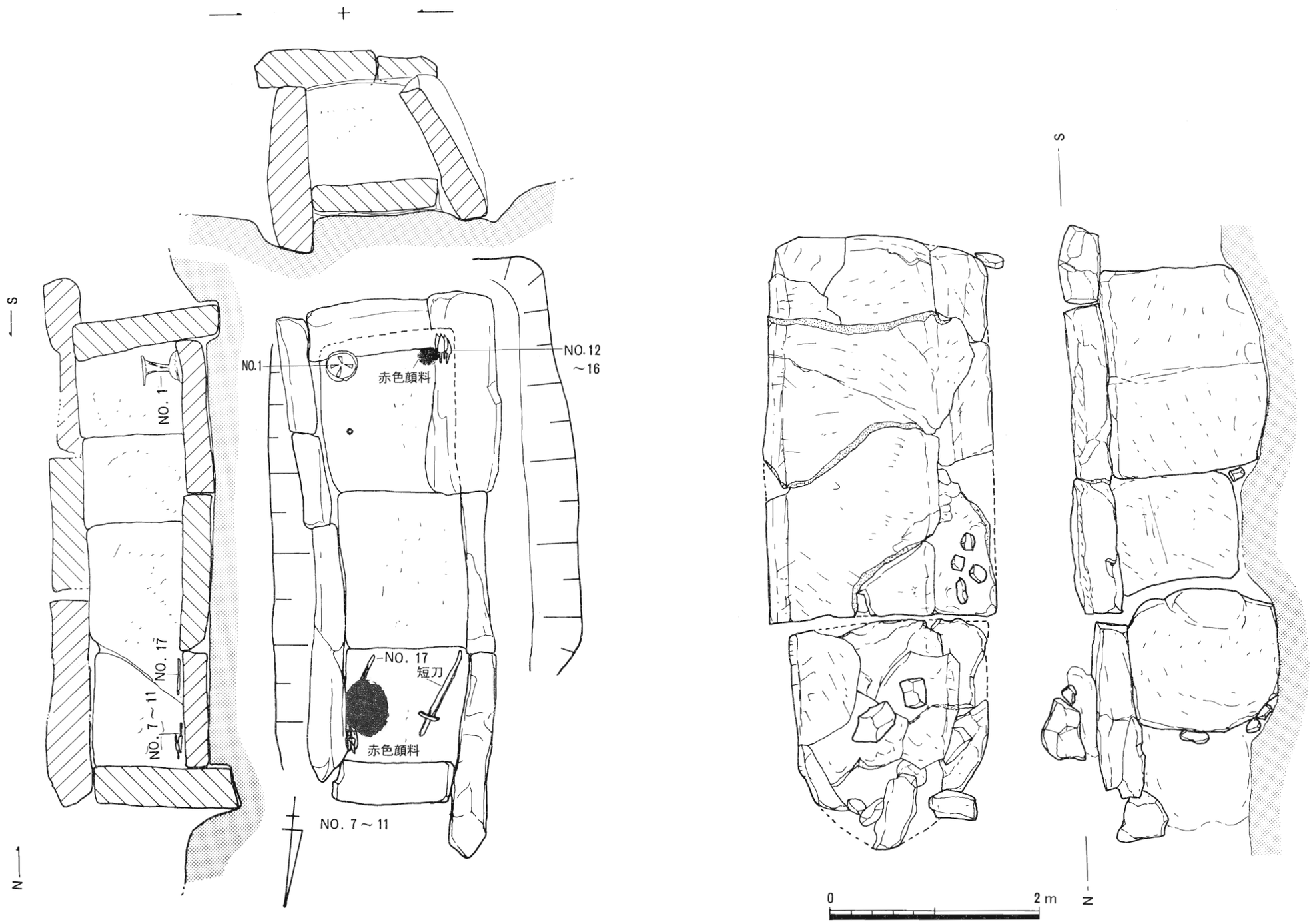
17　石棺内棺底北東隅で検出された鉄製刀子である。全長18.7cmで，刃長10.7cm，茎長7.7cmを測る。関部は両関で切先はやや鋭い。



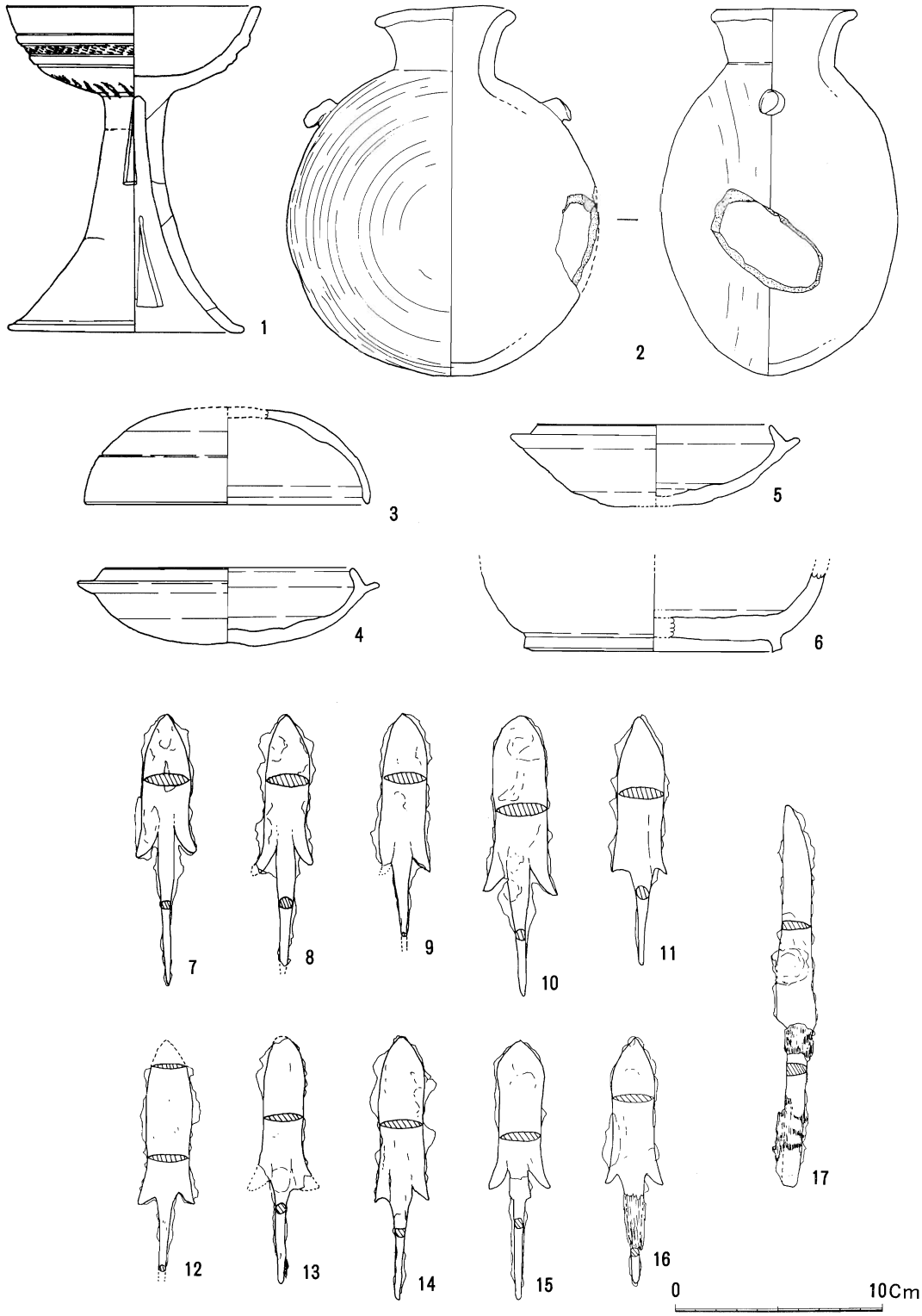
1．耕作土
2．暗褐色土
3．明褐色土
4．褐色粘性土
5．黒褐色土
6．褐色土（白色ブロック含）
7．暗褐色土（白色ブロック含）
8．褐色土
9．白色粘土
10．暗褐色粘性土



第6図　1号墳墳丘断面図



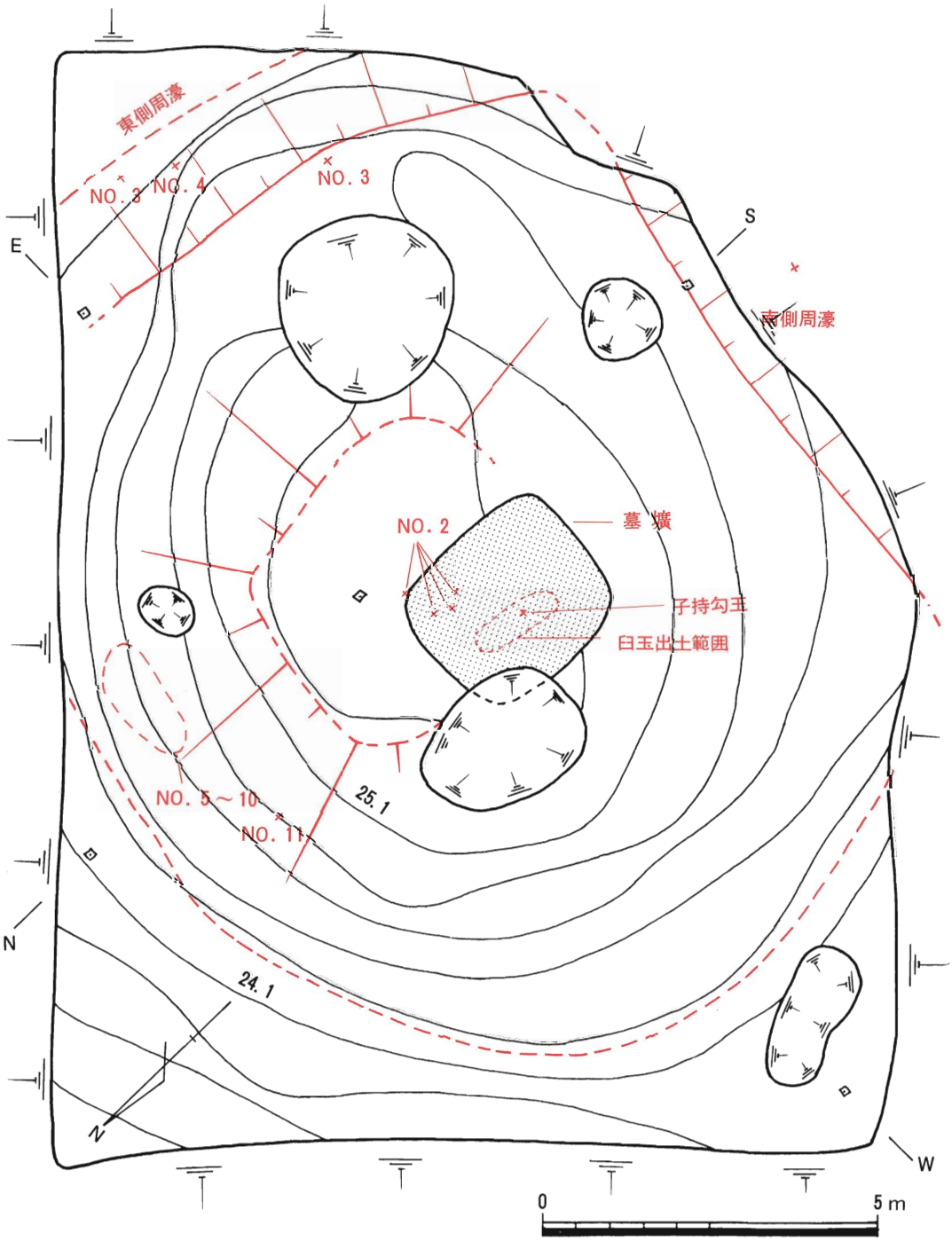
第7図　1号墳石棺実測図



第8図　1号墳出土遺物

(2)　2号墳の調査

2号墳は標高25mの尾根上に位置する。2号墳の調査は土層観察用の畦をほぼ東西南北にあわせて設定し，地山面まで掘り下げた。



第9図　2号墳墳丘測量図

ア．墳丘について

調査の結果，東西13.5m，南北11m，墳裾からの比高1.5mを測る略長方形の古墳であることがわかった。

墳丘の築造方法は，旧地表面から周濠を掘り，13.5m×11mの長方形の墳丘基盤を形成し，旧地表上に盛土を施して整形し，４m×４mの平坦面をつくる。最大盛土高は墳丘中心部で約50cmを測る。盛土は周濠掘削時の排土を利用したものと考えられ，土色，土質共に地山に似ている。

墳丘中の出土遺物としては，墳丘中心部分表土直下第２層から古墳時代中期の古式土師器の甕口縁部の破片（№２）が検出された。また墳丘北側第２層中から碧玉製剝片（№11）墳裾北側第８層中からは弥生土器片（№５，６，７，８，９，10）が検出された。

イ．周濠について

墳丘北辺および西辺では確認できなかったが，南辺および東辺においてほぼ直線的に走る周濠内側の上端ラインが確認されたのみである。周濠幅，深さについては不明である。出土遺物としては，東側周濠中から須恵器長頸壺破片（№３）と，時期不明の土師器片（№４）が出土した。

ウ．主体部について

墳丘中心部分の盛土を除去した段階で，地山面に主軸を南北におく2.8m×2.4mの正方形に近い方形墓壙プランが検出された。また，プラン検出時に中心からやや西寄りの位置に子持勾玉１個（第13図）と，これを取り囲むように南北1.2m，東西0.4mの範囲から538個の臼玉が検出された。更に10cm掘り下げた時点で石棺の蓋石が検出された。

この墓壙は地山面からほぼ垂直に掘り込まれており，深さは70cmを測る。この墓壙中心部分から来待石を使った箱式石棺が検出された。

この箱式石棺は，小口板を両側板で挟み，蓋石を置く通有のもので，来待石を平滑に加工した石材を使った極めて整美なものである。

蓋石は全長208cm，幅は南辺70cm，北辺63cm，厚さは平均８cmを測り，２枚の石材を継いで蓋石としており，その継目には白色の粘土で目張りをしてあった。この蓋石の周縁は面取りが施されており，南側の蓋石上面中央部には長辺方向に鈍い稜を持つが，北側の蓋石上面には稜は見られず，平滑に仕上げている。蓋石裏面には２cm程度の浅い刳り込みが施されている。この刳り込みは南北蓋石の継目部分で若干寸法のズレが見られ，別々に加

工して継ぎ合わせたことがうかがえる。

石棺本体の内法は，長さ163cm，南端幅45cm，北端幅40cm，深さ30cmを測り，東西両側板はいずれも2枚の石材を継いで使用している。蓋石との接合面及び内面は平滑に仕上げているが，外面はやや粗雑で，東側板の南板外面にはノミの痕跡が残っている。

この両側板外面には棺材固定用と思われる石材が北西隅を除く３箇所にクサビのように打ち込まれている（No.8～No.17）。これらの石材はいずれも安山岩を平らに打ち割ったものである。クサビ状の安山岩が認められなかった北西隅部分では，ペグマタイト質カコウ岩[註1]を使った拳大の石材（No.18）が検出されたが，その形状からクサビとして使用されたかどうか疑問が残る。また，西側板の下に置かれていた５個の石材（No.19～No.24）の内，No.24と西側板固定用石材No.17，さらに墓壙埋土中で検出された安山岩の破片が接合したことから，石棺を組み立てる際に現地で安山岩を割って使用したものであることが考えられる。

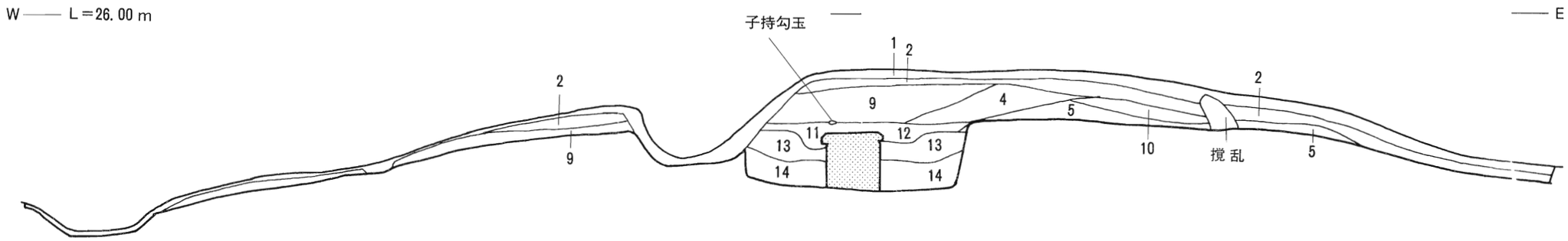
石棺内部については，蓋石を除去した時点で蓋石の亀裂から落ち込んだと思われる流入土が充満していた。この流入土を取り除くと深さ約30cmの位置に枕石と思われる石材（No.１～No.７）および白色の砂が検出された。枕石は合計７個あり，石材内訳は安山岩２個，カコウ岩４個，玉髄質めのう１個[註2]である。

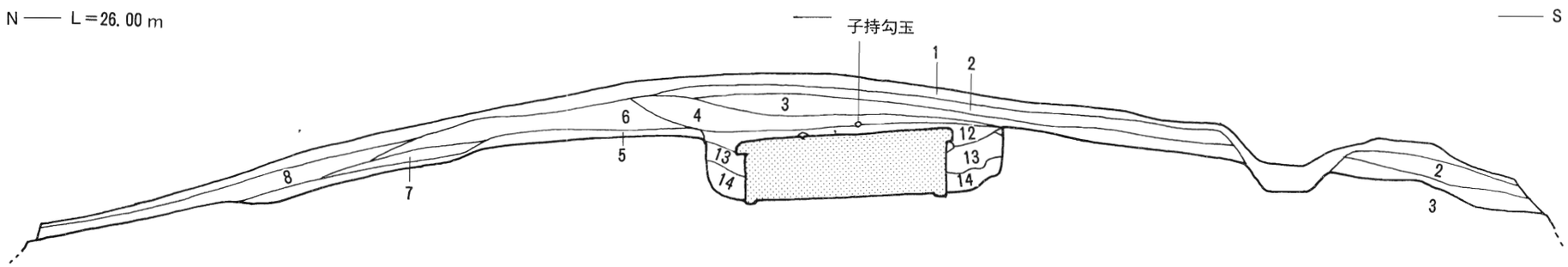
白砂は約１～２cmの厚さで一面に敷かれており，非常に粒が揃っている。またこの白砂は，石英，チョウ石からなり，乃木層中の砂層から採集した砂を洗って使っているものと思われる[註3]。

さらにこの白砂および石枕の下には，全面に３～５cm大の角が取れて丸みを帯びた礫を使った礫床が敷かれていた。この礫床の石材内訳は，約７割を占めるカコウ岩類をはじめ，安山岩，流紋岩などがあり，いずれも忌部川で採集できるものを使っていた。

エ．出土遺物について

第13図は墓壙検出面から出土した子持勾玉である。本体部は長さ11cm，最大幅3.8cm，厚さ2.5cmを測り，胴部断面はやや偏平気味な楕円形状を呈する。頭尾両端はカットして平坦面を持ち，穿孔は１箇所で径3.5mmを測る。この胴体の腹部に１個，背部に５個，側面にそれぞれ３個と４個の合計13個の鰭状突起を有する。石材は緑泥石化熱水変質岩で[註4]，軟らかい石材を使っている。色調は淡青灰色を呈し，淡緑灰色および淡灰白色の縞模様が見られる。年代については，大平茂氏の論考[註5]によるとＡ型子持勾玉の１類，Ⅱ－１形式に属し，５世紀後葉のものに比定される。

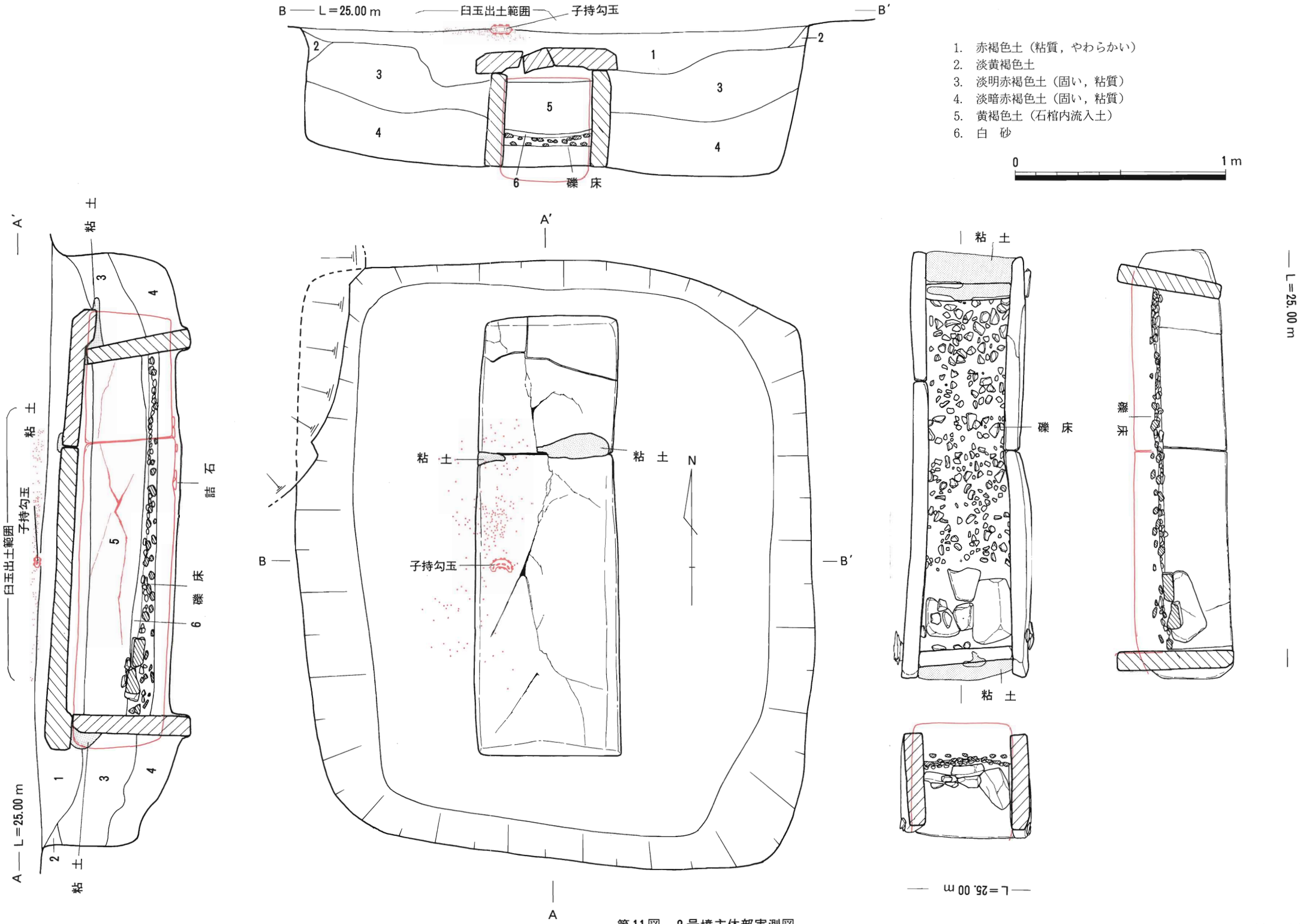




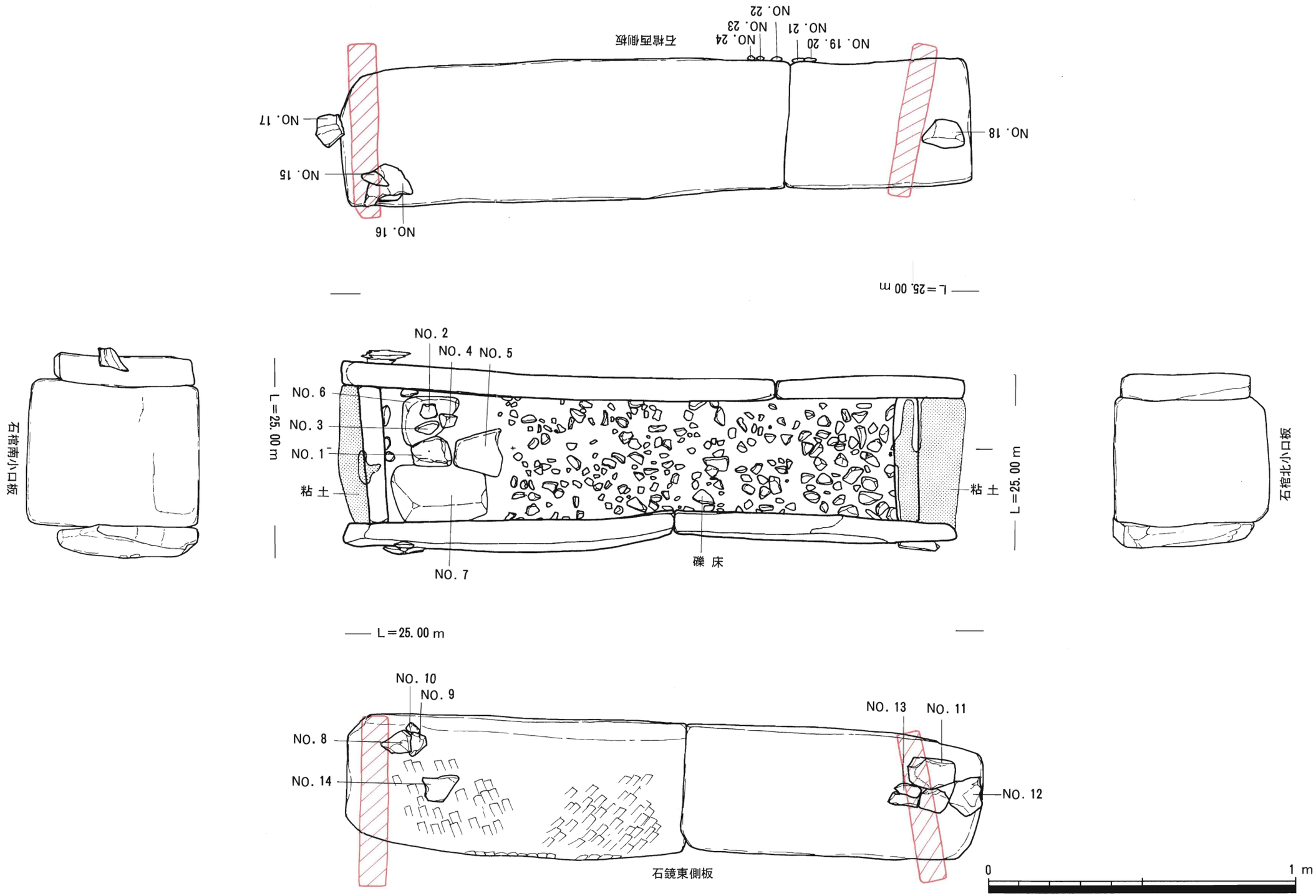
1. 表　土
2. 明赤褐色土（白色ブロック混入）
3. 明黄褐色土
4. 明赤墳褐
5. 旧表土
6. 淡明黄褐色土
7. 淡赤褐色土
8. 暗黄褐色土
9. 赤褐色土
10. 黄褐色土
11. 赤褐色土（粘質，やわらかい）
12. 淡黄褐色土
13. 淡明赤褐色土（固い，粘質）
14. 淡暗赤褐色土（固い，粘質）

0　4 m

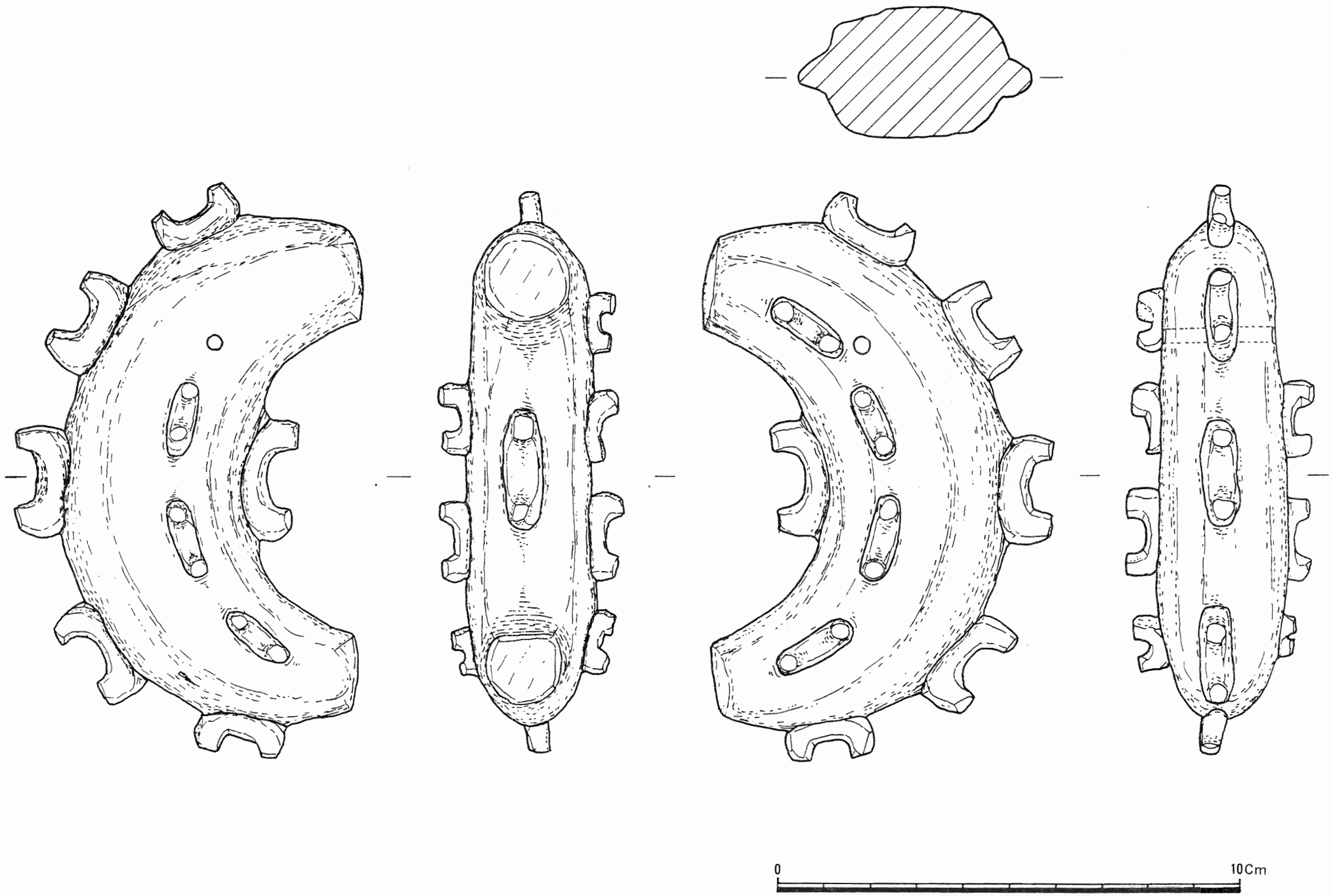
第10図　2号墳墳丘断面図



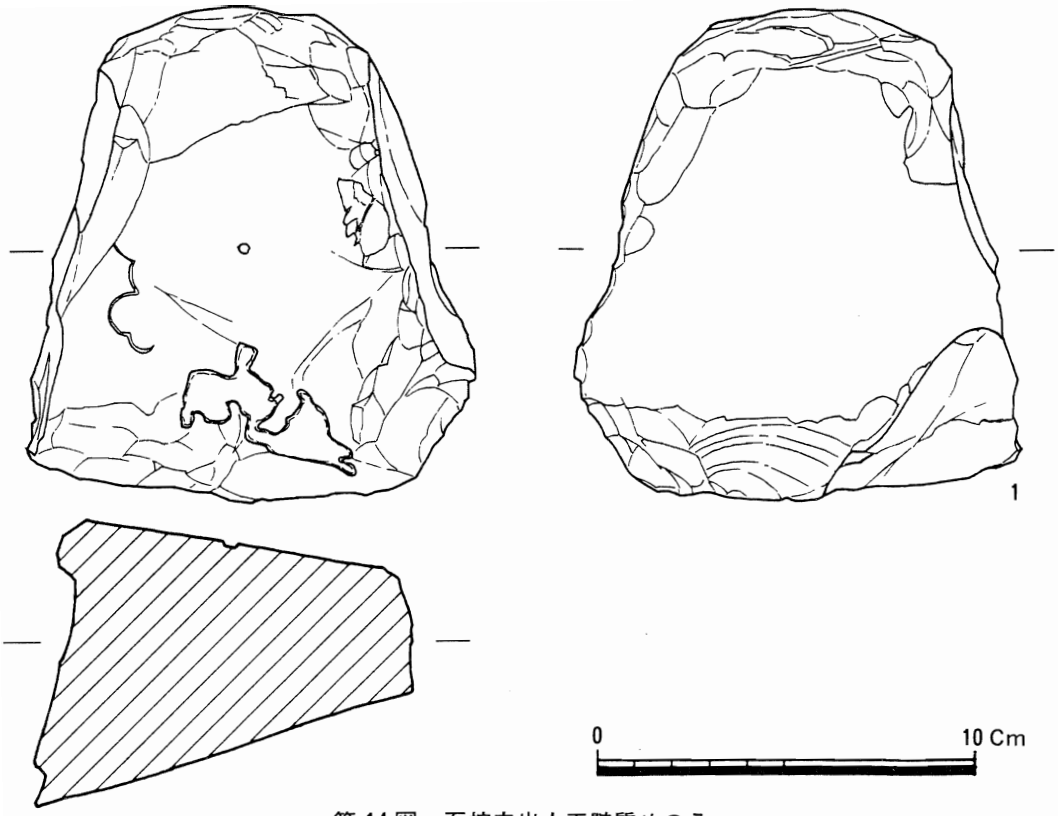
第11図　2号墳主体部実測図



第12図　2号墳石棺実測図



第 13 図　2 号墳出土子持勾玉，実測図



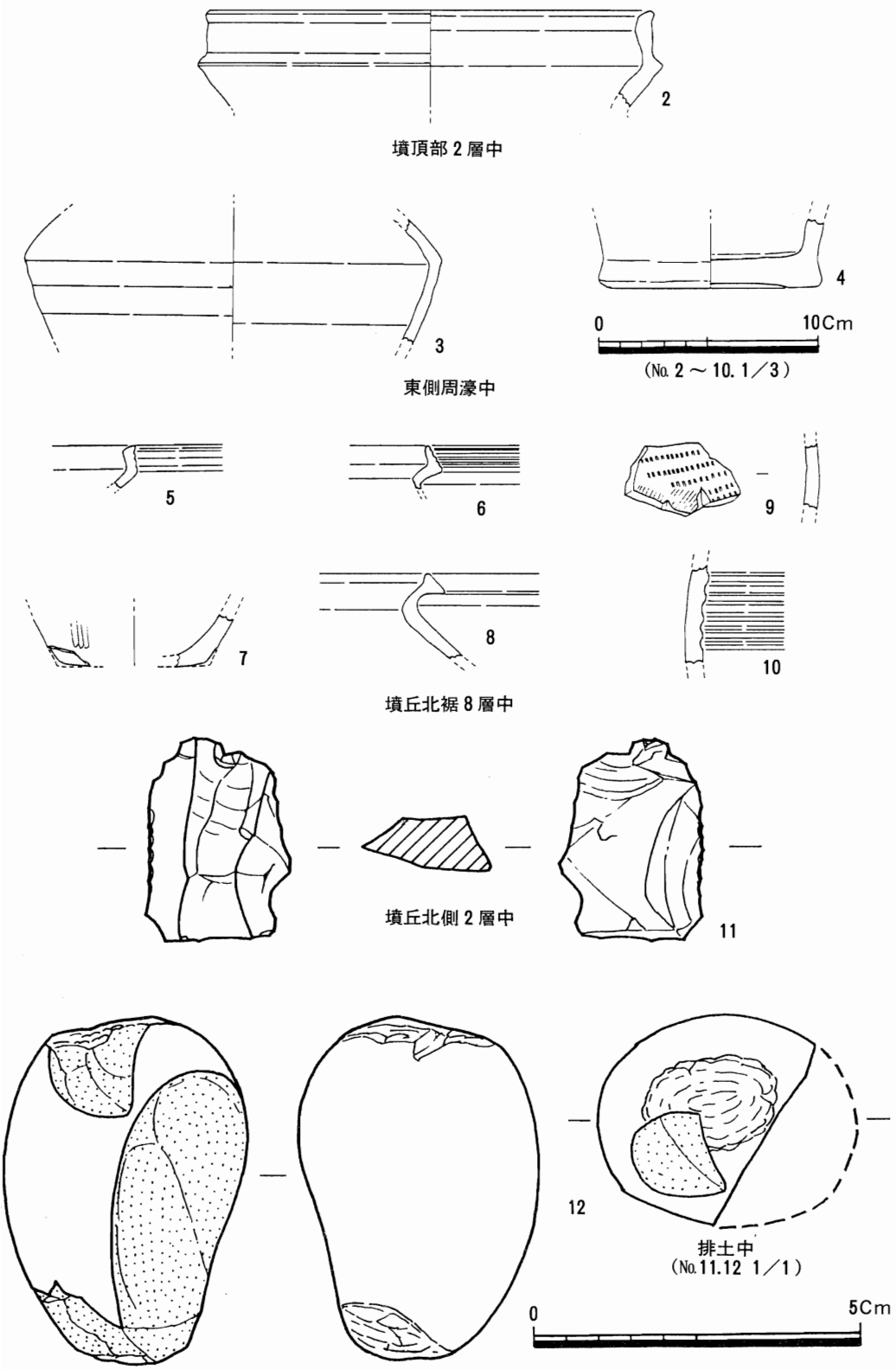
第 14 図　石棺内出土玉髄質めのう

PL－26，№3は子持勾玉を取り囲むように出土した臼玉である。南北1.2m，東西0.4mのやや広範囲に散布しており，直径3.5㎜～4㎜，厚さ0.5㎜～2.0㎜，孔径1.5㎜を測るもので，完形品のものは538個を数える。石材には淡青灰色と，やや緑がかった暗青灰色のものが見られるが，すべて石材は子持勾玉と同一の緑泥石化熱水変質岩である。

1　石棺内の石枕として使われていた玉髄質めのうである。色調は赤味がかった暗茶褐色を呈し，長さ13.4㎝，最大幅12.0㎝，厚さ7.5㎝を測るもので，粗く加工して角を落としている。

2　墳丘中央部分第2層，主体部検出面約30㎝上の位置から出土した古式土師器の甕口縁部の破片である。口径20.4㎝を測る複合口縁を持つが，口縁部外面の稜は頸部から連続して作り出しており，口縁端部は拡張して平坦面を持ち，いわゆる小谷式よりは時期の下るものと考えられる。

3　東側周濠中および東側墳裾部分から出土した破片が接合したもので，須恵器の長頸壺胴部破片であると思われる。最大胴部径19.4㎝を測る。



第 15 図　2 号墳出土遺物

4　東周濠中から出土した土師器の破片である。胎土は粗く，暗赤褐色を呈する。壺甕類の底部を思わせる器形であるが，通有のものに比べると重厚で，器種は断定できない。底部径9.4cm，厚さ1.2cmを測る。

5　北側墳丘裾部第８層中から出土した甕口縁部の破片である。やや内傾した口縁部を持ち，外面には最低３条の凹線文があったものと推定されるが，風化が著しく詳細は不明である。

6　北側墳丘裾部第８層中から出土した甕口縁部の破片である。内傾した口縁部を持ち，外面には４条の凹線文が施されている。口径は不明である。

7　北側墳裾第８層中から出土した壺甕類の底部破片である。径7.2cmの平底を持ち，外面にミガキがわずかに観察できる。

8　北側墳丘裾部第８層中から出土した甕口縁部の破片である。口縁部は頸部から大きく外反し，端部を拡張する。調整等は風化のため不明である。

9　北側墳丘裾部第８層中から出土した壺甕類胴部の破片である。外面にハケ目と，ハケ原体によると思われる刺突痕跡が観察される。

10　北側墳裾部第８層から出土した壺頸部の破片である。外面に４本の突帯を付ける。

11　墳丘北側斜面第２層中から出土した剝片である。花仙山産出の碧玉を原石とするものである。

12　墳丘掘削中に出土した赤めのう製の敲石である。一部欠損するが，両端面に敲打痕が残る。

これらのほかに，調査時に東側墳裾部分から黒耀石が９個集中して検出された（PL－26）。いずれも製品のものはなく，原石から粗く打ち割った段階のものと見られ，中には接合できるものもあった。

第 2 表　石棺内使用石材一覧表

	No.	石材材質		No.	石材材質
石枕	1	玉髄質めのう	棺材固定用	13	安山岩
	2	カコウ岩		14	安山岩
	3	カコウ岩		15	安山岩
	4	カコウ岩		16	安山岩
	5	安山岩		17	安山岩
	6	カコウ岩		18	ペグマタイト質カコウ岩
	7	安山岩	側板下詰石	19	ペグマタイト質カコウ岩
棺材固定用	8	安山岩		20	ペグマタイト質カコウ岩
	9	安山岩		21	ペグマタイト質カコウ岩
	10	安山岩		22	安山岩
	11	安山岩		23	安山岩
	12	安山岩		24	安山岩

第 3 表　石棺内礫床石材一覧表

石材材質	個体数	比率(%)
カコウ岩	470	65.1
アップライト質カコウ岩	28	3.9
変質カコウ岩	2	0.3
安山岩	81	11.2
流紋岩系	32	4.5
凝灰岩類	15	2.1
石英	1	0.1
珪質岩	3	0.4
珪質ミャク	1	0.1
玉髄質めのう	2	0.3
碧玉質めのう	3	0.4
堆積岩類	40	5.5
その他	44	6.1
合　計	722	

第4表　臼玉計測表（1）

番号	直径	厚み	口径
1	3.5	2	1.5
2	3.8	3	2
3	3.5	2	1.5
4	3	2	1.5
5	3.2	2	1.5
6	3.5	2.5	1.5
7	4	2	1.5
8	3.5	2	1.5
9	3.5	2	1.5
10	3.5	2	1.5
11	3.5	2	1.8
12	3.5	3	1.8
13	3.5	2.8	1.5
14	4	2	1.8
15	3.5	2.8	1.8
16	3.5	2	1.8
17	3.5	2	1.5
18	3.5	1	1.8
19	3.5	2	1.5
20	3	2	1.5
21	3.5	1.5	1.5
22	3	1.5	1.8
23	3	1.5	1.5
24	3	2	1.8
25	3.5	2.9	1.5
26	3	2	1.8
27	3.5	2	1.5
28	3	2.5	1.5
29	3	2	1.5
30	3.5	1.5	1.8

番号	直径	厚み	口径
31	3.9	2.9	1.8
32	3	2	1.8
33	3.8	2.2	1.5
34	3.5	2.5	1.5
35	3	2.2	1.5
36	3.5	2.8	1.8
37	3	2.8	1.5
38	3.5	2	1.5
39	3.2	2.2	1.9
40	3.5	2.2	1.8
41	3.8	1.8	1.8
42	3.2	2.6	1.8
43	3	3	1.9
44	3	3	1.5
45	3.5	2	1.6
46	3	2	1.8
47	3	2	1.8
48	3.2	2	1.8
49	3.5	1.5	1.5
50	4	1	1.8
51	3.5	0.8	1.9
52	3.5	1	1.5
53	3.5	2.5	1.5
54	3	2	1.8
55	3.2	2	1.5
56	3.5	2	1.8
57	3.5	1.2	1.8
58	3	2	1.5
59	3.5	2.1	1.5
60	3.5	2.2	1.5

番号	直径	厚み	口径
61	3	2.9	1.9
62	3.5	2	1.5
63	3.5	1.5	1.8
64	3.5	2	1.5
65	3.5	2	1.8
66	3.8	1.5	1.8
67	3.5	2.5	1.5
68	3.5	1.8	1.8
69	3.5	2	1.8
70	3.5	1.5	1.8
71	3.5	1.2	1.5
72	3.5	2.5	1.8
73	3.2	1	1.8
74	3	2.9	1.9
75	3	2.5	1.8
76	3.5	1.2	1.5
77	3.5	1.5	1.8
78	3.9	2	1.8
79	3.5	2.5	1.5
80	3.5	2	1.5
81	3.5	1	1.8
82	3	2.5	1.5
83	4	2	1.8
84	3.5	1.2	1.2
85	3.5	2	1.8
86	3	2	1.5
87	3	2.9	1.8
88	3.5	1.2	1.5
89	3.5	1.8	1.8
90	3	2.5	1.5

番号	直径	厚み	口径
91	3.5	3	1.5
92	3.2	2	1.9
93	4	1.5	1.8
94	3.5	2	1.9
95	3.1	2.5	1.5
96	3.5	1.2	1.9
97	3	2.5	1.8
98	3.5	1.5	1.5
99	3.5	1.2	1.8
100	3.5	2	1.5
101	3.5	2	1.8
102	3.5	2	1.8
103	3	2	1.5
104	3.2	1.9	1.8
105	3.5	2	1.5
106	3	2.5	1.5
107	3.2	2.2	1.9
108	3.5	2.5	1.9
109	3.5	2.5	1.8
110	3.5	2.2	1.9
111	3.5	2.8	1.5
112	3.5	2.2	1.8
113	3.2	2.5	1.9
114	3.5	1.8	1.8
115	3.5	2.5	1.8
116	3.5	1.2	1.5
117	3	2.8	1.8
118	3.5	1.8	1.5
119	3.5	2.8	1.8
120	3	1.5	1.5

番号	直径	厚み	口径
121	3	1.5	1.8
122	3	2.5	1.9
123	3.5	2	1.8
124	3	2.8	1.8
125	3.5	2	1.9
126	3	2	1.5
127	3.5	2.9	1.8
128	3.2	3	1.5
129	3	2.8	1.5
130	3	2.5	1.5
131	3.5	2	1.8
132	3.5	2	1.8
133	3.5	2	1.8
134	3.5	2	1.8
135	3	2.9	2
136	3	1.8	1.8
137	3	2.5	1.8
138	3	2	1.5
139	3	2	1.8
140	3	2.9	1.8
141	3	2	1.5
142	3.5	2	1.5
143	3.5	2.5	1.9
144	3.5	1.5	1.8
145	3.5	1.9	1.9
146	3.5	2.5	1.5
147	3.5	2.5	1.5
148	3.5	2.4	1.8
149	3.5	2.8	1.8
150	3	2.5	1.5

番号	直径	厚み	口径
151	3.9	1.8	1.9
152	3	2.5	1.8
153	4	1.5	1.8
154	3	2	1.5
155	3.8	2.8	1.5
156	3.5	1.9	1.8
157	3.2	2.5	1.8
158	3	2	1.5
159	3	2.2	1.5
160	3.5	2	1.5
161	3	2.5	1.8
162	3.5	1.8	1.5
163	3.5	1.5	1.5
164	3	2	1.5
165	3.5	2.5	1.9
166	3	1.5	1.8
167	3.5	1	1.8
168	3.5	2	1.5
169	3	2.5	1.5
170	3	2	1.5
171	3.5	2.8	1.9
172	3.5	1	1.9
173	3.8	2	1.5
174	3.5	1.5	1.5
175	3	2	1.5
176	3.5	1.2	1.5
177	3.8	2	1.5
178	3.5	2	1.5
179	3.5	1.5	1.5
180	3.5	3	1.8

第5表　臼玉計測表（2）

番号	直径	厚み	口径
181	3.2	2	1.8
182	4	1.5	1.5
183	3.8	1.2	1.8
184	3	2.5	1.8
185	3.5	2	1.8
186	3	2	1.5
187	3.5	2	1.8
188	3	2.2	1.8
189	3.5	2.8	1.8
190	3	2	1.8
191	3.5	2	1.8
192	3.5	1.5	1.8
193	3	2	2
194	3	2.5	1.8
195	3.5	2	1.5
196	3.2	2.5	1.8
197	3.5	2	1.5
198	3.5	2	1.8
199	3.5	2	1.8
200	3	2	1.9
201	4	2	1.5
202	3	2.5	1.8
203	4	2	1.8
204	3	1.8	1.8
205	4	1	1.8
206	3.5	1	1.8
207	4	1	1.8
208	4	1	1.8
209	3.5	1.5	1.8
210	3.5	2.5	1.5

番号	直径	厚み	口径
211	3.5	2	2
212	3	2.5	1.8
213	3.5	1	1.5
214	3.5	1	1.8
215	3.5	1	1.5
216	3	1	1.8
217	3.5	1.5	1.8
218	3.5	1	1.8
219	3.5	1.5	1.8
220	3	1.5	1.5
221	3.5	1.5	1.8
222	3.5	1	1.5
223	3	2	1.5
224	3.5	1.5	1.8
225	4	1	1.8
226	3.5	1.5	1.8
227	3.5	1.5	1.9
228	3.5	1.8	1.8
229	3.5	2	1.8
230	3	2	1.5
231	3	1.9	1.5
232	3.5	2.5	1.9
233	4	1.5	1.9
234	3.5	2.5	1.9
235	3	2.5	1.8
236	3.5	2	1.5
237	3	2.2	2
238	3.5	1.8	1.8
239	3.5	2.5	1.8
240	3.5	1	1.8

番号	直径	厚み	口径
241	3.8	2	1.8
242	3	1.8	1.8
243	3.5	0.9	1.9
244	3.8	2	1.8
245	3	2.8	1.9
246	3.5	1.8	1.8
247	3.5	2.8	1.8
248	3.5	2	1.5
249	3	2	1.5
250	3.5	2	1.8
251	3.5	1.2	1.8
252	3	2	1.8
253	3.5	2	1.5
254	3	2	1.8
255	3	2	1.5
256	3	1.5	1.8
257	3.5	1	1.8
258	3	1.9	1.5
259	3	1.8	1.9
260	3	1.8	1.5
261	3	2	1.5
262	3	2.5	1.8
263	3	1.5	1.5
264	3	2	1.5
265	3	1.5	1.5
266	3	2.5	1.5
267	3.5	2.5	1.5
268	3	2.8	1.8
269	3	2	1.5
270	3	1.8	1.8

番号	直径	厚み	口径
271	3	2.2	1.5
272	3	2.5	1.5
273	3.5	1.5	1.5
274	3.5	2	1.8
275	3	1	1.5
276	3	2	1.5
277	3	2.5	1.5
278	3.5	2	1.5
279	3	2	1.5
280	3	1.2	1.5
281	3.5	1.2	1.5
282	3.5	1.2	1.4
283	3	1.5	1.8
284	3	1.2	1.5
285	3	1	1.5
286	3	0.8	1.5
287	3	1	1.8
288	3	1.5	1.5
289	3	1.8	1.5
290	3	2	1.5
291	3	2	1.5
292	3	1.5	1.5
293	3	2.5	1.5
294	3.5	2	1.5
295	3	1.5	1.8
296	3	1.5	1.5
297	3	1.8	1.5
298	2.8	2	1.8
299	3	2	1.5
300	3	1.9	1.5

番号	直径	厚み	口径
301	3	1.8	1.4
302	3	2	1.5
303	3	1.5	1.5
304	3	2	1.4
305	3	1.5	1.5
306	3	1	1.5
307	3	1	1.5
308	3	1.4	1.8
309	3	1	1.5
310	3	1.2	1.4
311	3	1.8	1.5
312	3	2.5	1.5
313	3	2	1.5
314	3	2	1.4
315	3.5	2.8	1.8
316	3	1.8	1.5
317	3	2	1.5
318	3.5	2.5	2
319	3.5	1.4	1.5
320	3.2	1.4	1.5
321	3	1.5	1.5
322	3	1.5	1.5
323	3	1.8	1.5
324	3	1.5	1.6
325	3	1.8	1.4
326	3.5	1.2	1.5
327	2.8	1.5	1.5
328	3	1.8	1.5
329	3	2	1.5
330	3	2.6	1.5

番号	直径	厚み	口径
331	3	2	1.5
332	3.2	1.8	1.5
333	3	2	1.5
334	3	1.9	1.5
335	3	1.8	1.5
336	2.8	1	1.5
337	3	1.5	1.8
338	3	2	1.5
339	3.2	1.8	1.8
340	3.5	2	1.5
341	3	1.5	1.8
342	3	1.5	1.8
343	3.2	1.2	1.5
344	3.2	1	1.8
345	3.5	1.5	1.5
346	3	1.5	1.5
347	3	2	1.5
348	3	2	1.5
349	3	1.8	1.5
350	3.2	1.9	1.5
351	3	2	1.5
352	3	2.1	1.5
353	3	2	1.5
354	3.5	2	1.5
355	3	2.2	1.5
356	3	2	1.5
357	3	1.2	1.5
358	3.2	2	1.5
359	3	2.2	1.5
360	3.2	1.8	1.5

第6表　臼玉計測表（3）

番号	直径	厚み	口径
361	3.2	1.6	1.5
362	3.2	1.5	1.6
363	3.2	1.8	1.5
364	3.5	1.9	1.5
365	3	2.1	1.8
366	3	1.5	1.5
367	3.5	1.8	1.8
368	3	1.2	1.3
369	3	2.2	1.3
370	3.2	2	1.5
371	3	1.5	1.5
372	3	1.2	1.8
373	3	1.8	1.5
374	3	1.9	1.5
375	3	1.8	1.5
376	3.5	1	1.5
377	3	1.9	1.8
378	3	2.2	1.5
379	3.5	0.9	1.5
380	3	2	1.8
381	3	1	1.5
382	3	2	1.5
383	3	1.6	1.8
384	3.5	2	1.5
385	3.5	1.8	1.8
386	3	2.2	1.8
387	3	1.5	1.5
388	3	1.8	1.8
389	3	2.2	1.5
390	3	2.5	1.5

番号	直径	厚み	口径
391	3	2	1.5
392	3	2.5	1.5
393	3.5	2.5	1.5
394	3	2.2	1.5
395	3	1.8	1.6
396	3	1.8	1.9
397	3	1.9	1.8
398	2.8	2	1.5
399	2.5	2.2	1.8
400	3.2	1.5	1.5
401	3	2	1.5
402	3	1.8	1.5
403	3	2	1.5
404	3.2	2	1.6
405	3	1.8	1.8
406	3	2.2	1.5
407	3.5	0.9	1.9
408	3	1.8	1.5
409	3.5	1	1.5
410	3.5	2	1.5
411	3	2.5	1.8
412	3	2	1.5
413	3.5	1.5	1.5
414	3.5	1	1.5
415	3.5	0.8	1.5
416	3.5	0.9	1.8
417	3.5	1	1.5
418	3.5	0.9	1.8
419	3.2	1.1	1.5
420	3.5	1	1.5

番号	直径	厚み	口径
421	3.5	1.1	1.5
422	3.2	1.5	1.5
423	3	1.2	1.5
424	3	2	1.5
425	3	1	1.9
426	3	1.2	1.5
427	3.5	1.1	1.5
428	3	1.8	1.5
429	3.2	1.8	1.5
430	3	1.3	1.5
431	3	1	1.5
432	3	1.5	1.5
433	3	1.8	1.5
434	3	1.5	1.5
435	3	1.5	1.5
436	2.8	1.5	1.5
437	3	1.8	1.5
438	3.5	1	1.8
439	3	1.3	1.8
440	3	2	1.5
441	3	1.8	1.8
442	3.2	1	1.5
443	3.5	0.9	1.5
444	3.5	1.9	1.5
445	3	1.8	1.5
446	3	1	1.4
447	3.5	1.2	1.5
448	3	2.2	1.5
449	3	1	1.5
450	3.5	1.2	1.5

番号	直径	厚み	口径
451	3	1.9	1.5
452	3.5	1.9	1.5
453	3.5	1.2	1.6
454	3	1.3	1.5
455	3	1.5	1.5
456	3	1	1.5
457	3	1.5	1.5
458	3	1.8	1.5
459	3	1.2	1.5
460	3	1.8	1.5
461	3.2	2	1.5
462	3	2.1	1.6
463	3.5	1.8	1.8
464	3.2	1.5	1.5
465	3.5	1.8	1.5
466	3	1.8	1.5
467	3	1.5	1.5
468	3.5	2	1.8
469	3	1.8	1.6
470	3	1.2	1.5
471	3	3.1	1.6
472	3	3	1.5
473	3	2.5	1.5
474	3	1.8	1.8
475	3	2	1.5
476	3	1.8	1.5
477	3	1.2	1.2
478	3.2	1.5	1.2
479	3.2	1	1.5
480	3.2	1.9	1.5

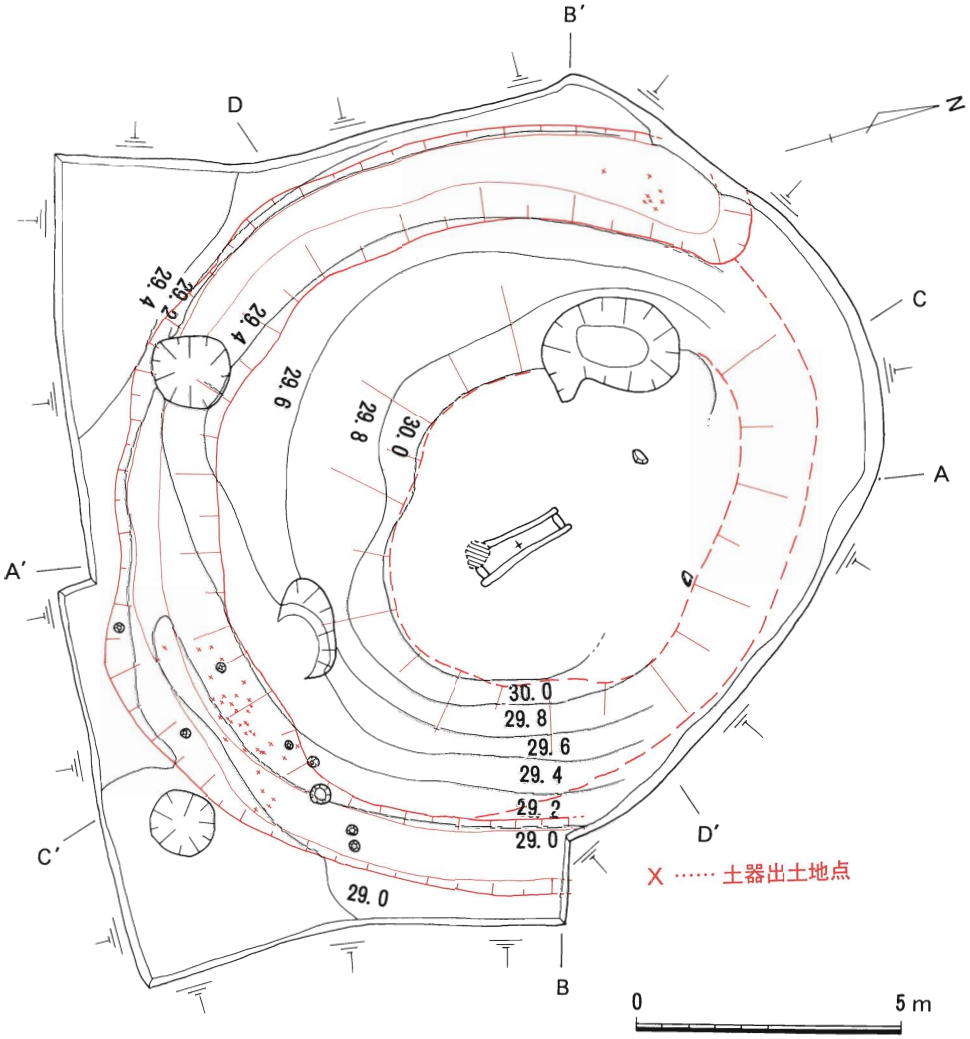
番号	直径	厚み	口径
481	3.5	1.8	1.5
482	3.5	1.8	1.5
483	3.5	2	1.8
484	3	2	1.5
485	3.5	2.5	1.5
486	3	2.1	1.5
487	3	2.2	1.5
488	3.5	2.8	1.5
489	3.5	1.2	1.5
490	3	1.8	1.5
491	3.2	1.2	1.5
492	3.5	1.2	1.5
493	3.5	2.1	1.5
494	3.5	1.5	1.5
495	3.5	1.8	1.5
496	3.5	0.8	1.5
497	3	0.8	1.8
498	3	1.9	1.5
499	3.5	2.2	1.8
500	3.5	2.2	1.2
501	3	1.8	1.5
502	3.5	1.8	1.5
503	3.2	3	1.5
504	3	1	1.8
505	3.5	1.2	1.3
506	3.2	1.6	1.2
507	3	1.9	1.8
508	3	1	1.5
509	3	1.8	1.2
510	3.5	2.9	1.5

番号	直径	厚み	口径
511	3	2.8	1.8
512	3	1	1.1
513	3	1.2	1.8
514	3	1.6	1.5
515	3	1.1	1.5
516	3	2	1.6
517	3.5	2	1.5
518	3	2	1.5
519	3.2	1.5	1.6
520	3.5	1	1.5
521	3	1.8	1.5
522	3	3	1.8
523	3.5	1.1	1.8
524	3	1.8	1.5
525	3	2.1	2
526	3	1.8	1.5
527	3	1.2	1.8
528	3.5	0.7	1.6
529	3	1.6	1.5
530	3.2	1.3	1.6
531	3	1.2	1.2
532	3	1.5	1.5
533	3	1.5	1.6
534	3	2.3	1.8
535	2.8	1.8	1.2
536	3.2	1.8	1.5
537	3	1.8	1.5
538	3	2	1.5

(3)　3号墳の調査

3号墳は墳頂部で標高30mを測り，古墳群中最も標高の高い位置に存在する。

3号墳の調査は，土層観察用の畦を丘陵尾根線に平行と直交する形で十字に設定して地山面まで掘り下げた。昭和63年度に墳丘北半分，平成3年度に墳丘南半分を調査した。



第16図　3号墳調査後墳丘測量図

ア．墳丘について

調査の結果，直径11m，墳裾からの比高１mを測る円墳であることがわかった。

墳丘の築造方法は，地山面から周濠を掘り，直径11mの円形の墳丘基盤を形成し，旧表土上に盛土を施して整形し，６m×６mのやや不整形な平坦部をつくる。最大盛土高は墳丘中心部分で80cmを測る。盛土は周濠掘削時の排土を利用したものと考えられ，土色，土質ともに地山に似ている。墳丘出土遺物としては，昭和63年度墳丘北側調査では墳丘掘削時に出土した須恵器甕片（№８，９）のみであるが，この破片は平成３年度南側周濠中から出土した須恵器甕（№11）と同一個体のものであろうと考えられる。

イ．周濠について

墳丘南側では，幅1.8m～2.5m，深さ10cm～20cmの円弧を描く周濠が確認された。墳裾北側は崩壊のため周濠は確認されなかったが，築造当初は古墳を取り巻いて円形に巡っていたものと推定される。

この周濠からは昭和63年度に調査した北西部分から古式土師器と，平成３年度に調査した南東部分から須恵器が検出されている。

周濠北西部分では周濠底から約５cm浮いた位置から古式土師器の高坏５個体（№１～６），小型壺１個体（№７）が検出された。周濠南東部分では約10cm～20cm浮いて墳裾から周濠底にかけて流れ込むように多数の須恵器片が検出された。これらは復元すると，須恵器坏１個体（№10），須恵器甕１個体（№11）となった。

ウ．主体部について

墳丘中心部分の表土を剝いだ段階で，来待石製の石棺側板と小口板の上面が検出された。蓋石はすでに除去されており，蓋石の破片と思われる来待石の石材破片が流入土とともに石棺内に落ち込んでいた。

石棺は，側板，小口板とともにやや厚手の来待石の一枚板を使い，小口板を両側板で挟んだ通有の形態をもつ箱式石棺である。石材は，蓋石との接合面及び石棺内面を平滑に仕上げるが，両側板外面は粗く仕上げている。長辺主軸を南北方向からやや西に振った形で置いている。西側板長204cm，側板高35cm，厚さ15cm，東側板長205cm，側板高35cm，厚さ15cm，南小口板長40cm，高さ30cm，厚さ10cm，北小口板長30cm，高さ33cm，厚さ11cmを測る。内法は長さ176cm，南幅40cm，北幅30cm，深さ25cmを測り，南側を幅広に作っている。

この石棺は盛土中に納められており，旧表土面の上に第６，７層を盛った段階で石棺を

組合せ，石棺の周囲には赤褐色の粘土を張り付けて固定し，再び盛土を施したものである。また，この石棺を除去した際に，下部から1.3m×0.5m，深さ18cmの不整形の掘り込みが確認され，内部には来待石の細片を含んだ淡黄褐色土（第３層）が充満していた。

石棺内出土遺物としては，棺底面北側に鏃先を北へ向けた鉄鏃が23本（№１～23）束ねられた状態で検出された。

石棺外出土遺物としては，石棺側板検出面南東角部分から全長37.1cmを測る短刀（№24）が検出された。

エ．出土遺物について

№１から№７は昭和63年度の調査で北西部の周濠中から検出された。

１　口径21.0cmを測る古式土師器の高坏坏部破片である。口縁部で外反し，やや深い坏部の外面に鈍い稜をもつ。外面には一部ハケ目が残り，内面はハケ目調整の後に暗文を施す。

２　推定口径16.8cmを測る古式土師器の高坏で，脚底部を欠損する。口縁部は外反し，やや深い坏部の外面に鈍い稜をもつ。坏底部外面および坏部内面にハケ目が残り，脚部内面にケズリが見られる。

３・４　№３と№４は本来同一個体のもので，古式土師器の高坏である。口径19.2cm，底径13.6cmを測る。口縁部は外反し，やや深い坏部の外面に鈍い稜をつける。脚部は大きく「ハ」字状に開き，径７mmの穿孔を１箇所に施す。調整は坏部内外面は風化のため不明であるが，坏底部および脚部外面にミガキが残る。

５　口径15.4cmを測る古式土師器の高坏で，脚部を欠損する。坏部はやや浅く，底部から口縁部にかけてゆるやかに内湾しながらのびる。調整は風化のため不明である。

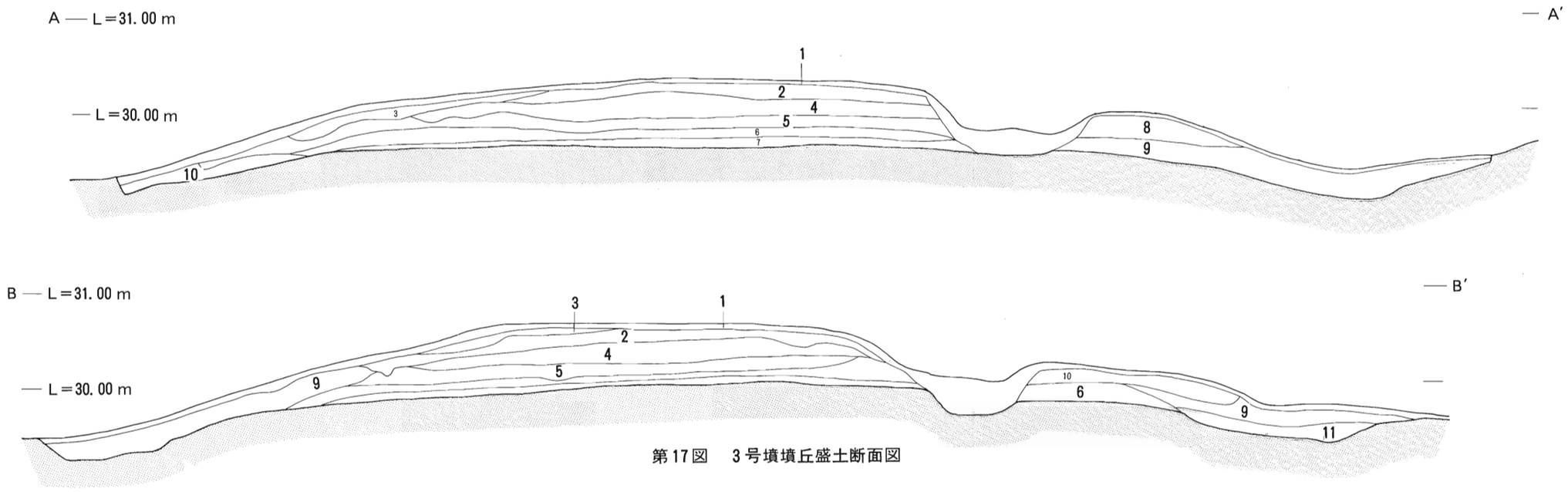
６　口径16.8cm，底径8.9cm，器高11.7cmを測る古式土師器の高坏である。坏部はやや浅く，底部から口縁部にかけてゆるやかに内湾しながらのびる。脚部は「ハ」字状に短く開く。

７　推定口径8.6cmを測る小型壺破片である。外面に所々ハケ目が残り，内面は頸部以下にケズリが残る。

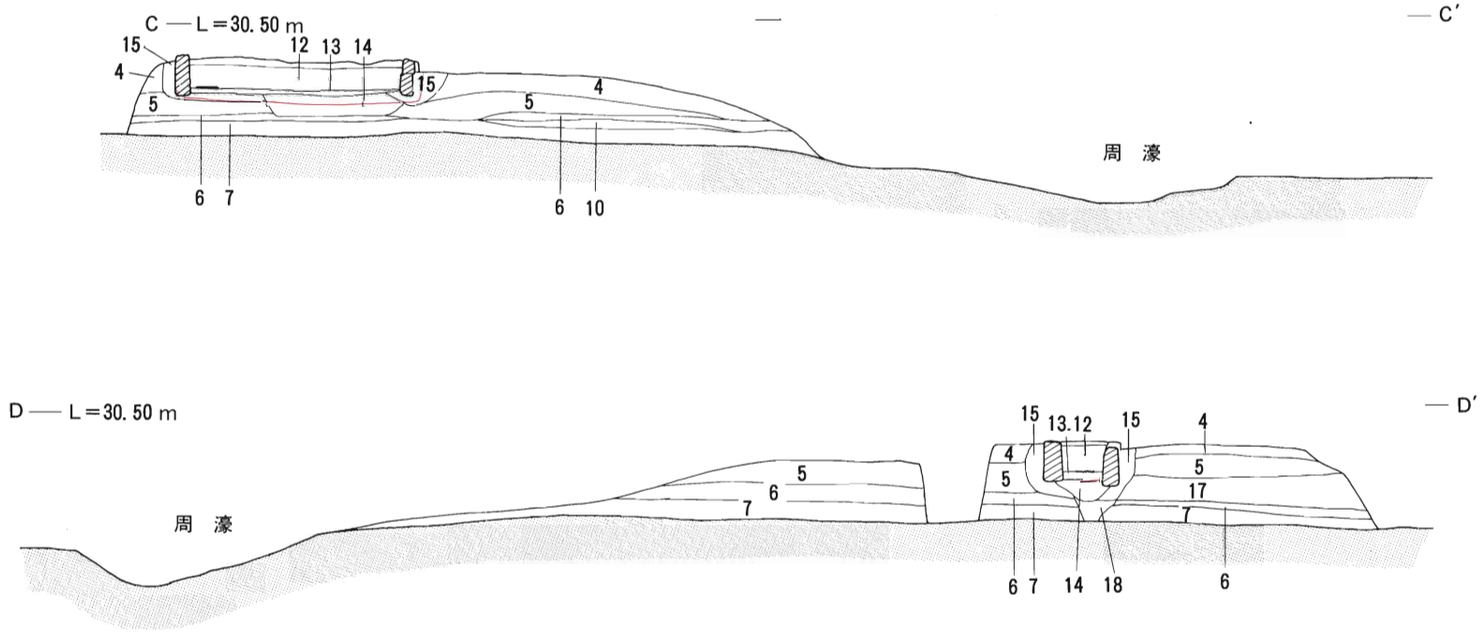
№８，９は昭和63年度の調査で墳丘掘削中に検出された。

８　厚さ0.6cmを測る須恵器甕片で，外面に平行タタキが残るが，内面は当て具痕跡を擦り消している。

９　厚さ1.0cmを測る須恵器甕片で，外面に平行タタキが残るが，内面は当て具痕跡を擦り消している。



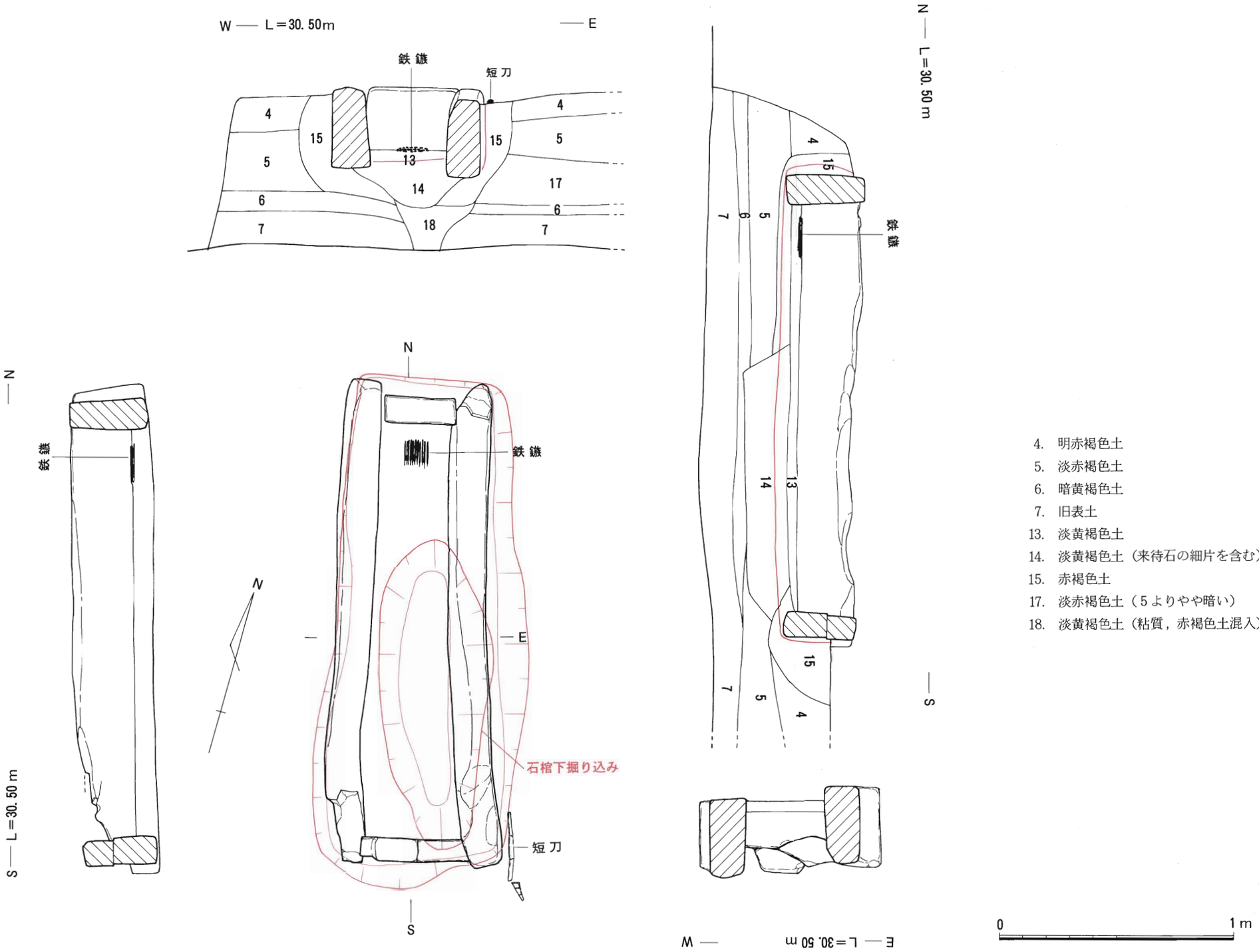
第17図　3号墳墳丘盛土断面図



1. 表　土
2. 暗赤褐色土
3. 暗黄褐色土
4. 明赤褐色土
5. 淡赤褐色土
6. 暗黄褐色土
7. 旧表土
8. 淡赤褐色土（5と同質）
9. 淡黄褐色土
10. 淡赤褐色土（黄色ブロック含む）
11. 淡黒褐色土
12. 暗茶褐色土（石棺内流入土）
13. 淡茶褐色土
14. 淡黄褐色土（来待石の細片を含む）
15. 赤褐色粘土
16. 淡黒褐色土
17. 淡赤褐色土（5よりやや暗い）
18. 淡黄褐色土（粘質，赤褐色土混入）

0　2 m

第18図　3号墳墳丘断面図



4. 明赤褐色土
5. 淡赤褐色土
6. 暗黄褐色土
7. 旧表土
13. 淡黄褐色土
14. 淡黄褐色土（来待石の細片を含む）
15. 赤褐色土
17. 淡赤褐色土（5よりやや暗い）
18. 淡黄褐色土（粘質，赤褐色土混入）

第19図　3号墳石棺実測図

№10，11は平成３年度の調査で南東部の周濠中から検出された。

10　口径14.0cm，器高4.5cmを測る須恵器の坏である。底部からゆるやかに立ち上がり，内湾しながら口縁部に至り，端部はわずかに外反する。坏底部外面には静止糸切り痕が残る。

11　口径25.0cmを測る須恵器の甕である。口縁部はゆるやかに外反して開き，口縁部外面に一条の鋭い突帯をつける。胴部外面には平行タタキが残るが，内面は当て具痕跡を擦り消している。

№１～24は，石棺内および石棺外から検出された鉄製品である。

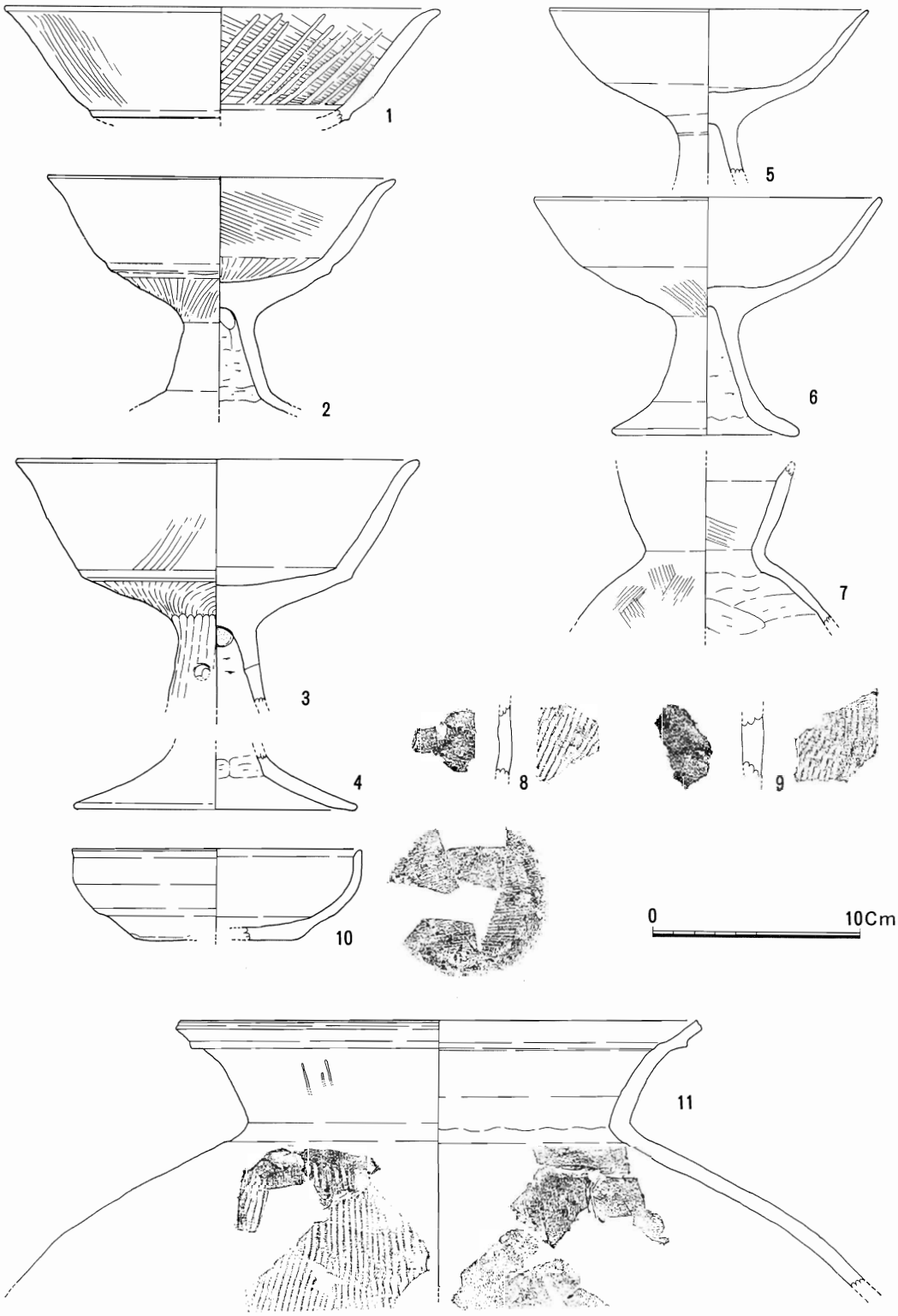
１～23　鉄鏃は石棺北側に束ねて23本検出された。うち16本が柳葉形，２本に逆棘を付けたものが見られる。

24　石棺外南東角部，側石上端検出面で切先を北に向けて検出された短刀である。全長37.1cm，刃長28.6cm，最大刃幅35cm，把長8.5cmを測る。

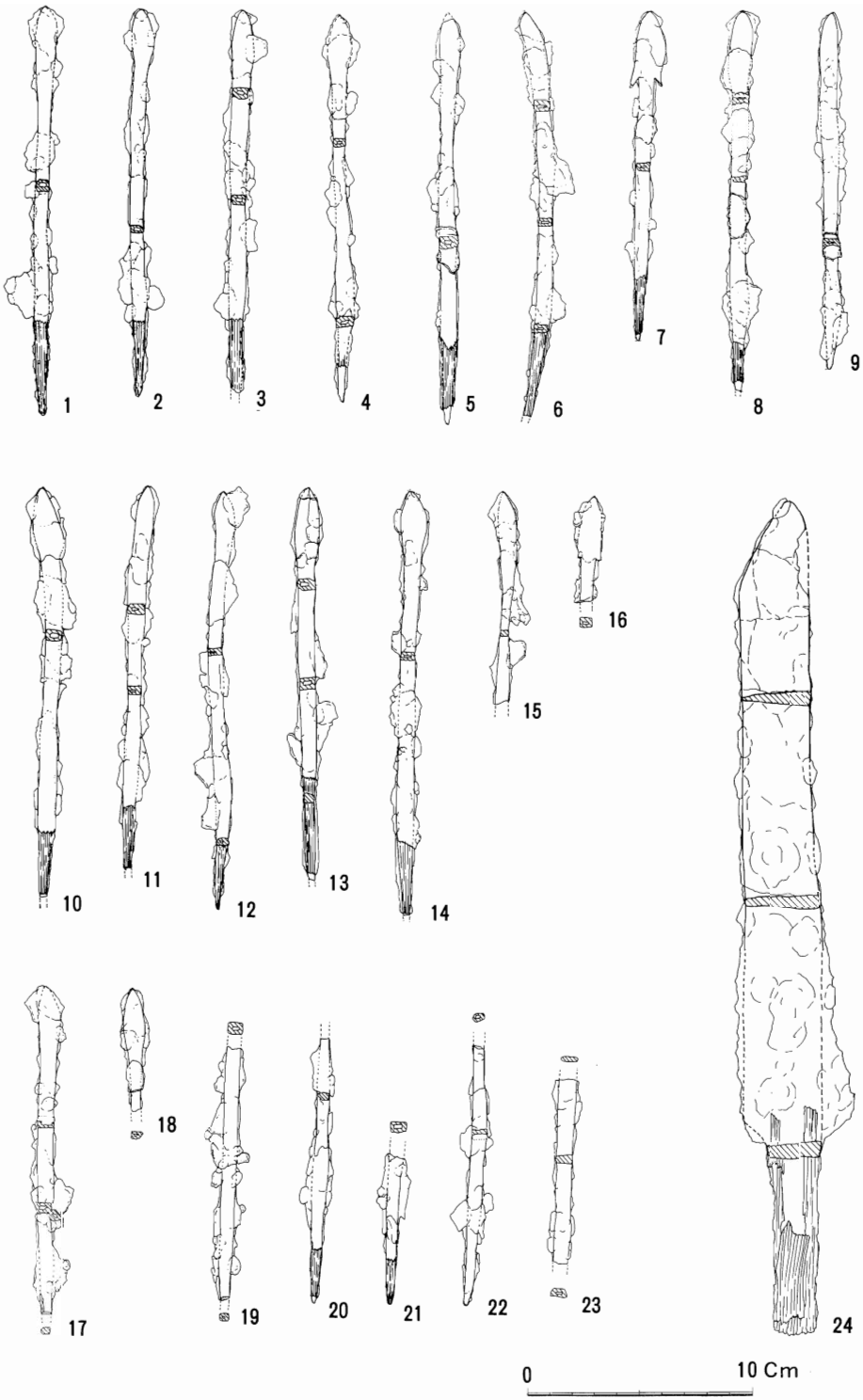
第７表　３号墳出土鉄鏃一覧表

（単位　cm）

No.	残存長	刃長	刃幅	鋒形態	No.	残存長	刃長	刃幅	鋒形態
1	18.2	—	0.9	柳葉形	13	17.4	3.5	1.1	柳葉形
2	17.2	2.5	1.0	〃	14	18.8	2.5	1.2	〃
3	17.0	2.8	1.0	〃	15	9.4	—	0.8	〃
4	17.1	2.4	1.1	〃	16	4.7	2.9	1.1	逆棘付
5	18.3	2.5	0.9	〃	17	14.5	2.5	1.0	柳葉形
6	17.9	—	0.9	〃	18	5.5	2.7	0.9	〃
7	14.5	3.4	1.4	逆棘付	19	11.2	—	—	———
8	16.8	3.1	0.9	柳葉形	20	11.7	—	—	———
9	15.8	—	0.8	〃	21	6.7	—	—	———
10	18.1	3.0	1.4	〃	22	11.5	—	—	———
11	16.9	—	0.8	〃	23	8.2	—	—	———
12	18.5	2.0	0.9	〃					



第20図　3号墳出土遺物



第21図　3号墳出土鉄製品

4．考　　察

(1)　子持勾玉について

子持勾玉は，その特異な形態に注目され，古くは江戸時代から研究されている。

その形の起源については，魚形勾玉説，蚕起源説，櫛形勾玉派生説，銅鐸起源説などの諸説があり，いまだに解明されていない部分が多いが，祭祀儀器として使われたであろうということが現在のおおよその考え方である。

子持勾玉は，島根，鳥取両県下においては現在までに島根５個，鳥取19個が知られているが偶然の発見によるものがほとんどで，調査時に発見されたものは，本例をはじめ金崎一号墳出土例，出雲玉作跡出土例，福市遺跡出土例，研石山遺跡出土例[註6]，安来岩屋口遺跡[註7]出土例など，ごく少数である。出土地について全国的に見ると，古墳時代中期から後期前半に集中して古墳，集落祭祀遺跡等からの出土例が知られている。

子持勾玉の年代観については，調査中出土例が少ないため，いまだに編年が確立されているとは言い難いが，鰭状突起の形態，勾玉本体の断面形比率および反り比率などに注目して各種の編年が試みられている。その中で，大平茂氏の論考の中に本例をあてはめてみると，本体頭尾部両端を平面的に仕上げ，背部の鰭状突起が独立していることから，Ａ型子持勾玉の１類に分類され，勾玉本体断面比率0.73，反り比率0.58であることからⅡ－１形式範中に含まれ，５世紀後葉の年代観が与えらる。

(2)　主体部について

二名留古墳群の３基の古墳はいずれも来待石製の石棺を内部主体として持つものであるが，その形態には共通点と相違点が見られる。

まず共通点としては，石棺の長辺方向主軸をほぼ南北にとり，南側を幅広に作っている。いずれも頭位を南に向けたものと考えられる。石材の組合せ方はいずれも小口板を側板で挟み込む方法であり，一般的に見られる形態である。石材の調整法としては，いずれも蓋石との接合面および内面を平滑に仕上げているが，外面は若干粗く仕上げる傾向が見られる。

相違点としては，まず石材の使い方がある。３号墳はやや厚手の石材ですべて一枚石を使うが，２号墳は両側板，蓋石ともに２枚継ぎで使い，１号墳は両側板ともに３枚継ぎで組み立てている。これは時期差と関係があるものと考えられ，時期が下がるにつれて運搬

が容易なように小さな石材に分け，合理化を図っている。床面施設については，１号墳は土のままで，２号墳は礫床の上に白砂を敷き，３号墳は３枚の板石を使って床面とする。これが時期差に起因するものかどうかは定かでないが，３基中最も丁重に葬った感のあるのが２号墳であり，被葬者の地位，経済力とも兼ね併せて考える必要があると思われる。

３基それぞれの主体部について決定的に違うのは，石棺の埋納方法である。３号墳は旧表土上にある程度盛土を施した段階で石棺を組み立て，周囲を粘土で固定し，更に盛土を施し，盛土中に浮いた状態で石棺を埋納する。２号墳は地山面を掘り込んだ墓壙の中に石棺を組み立てて埋め戻し，その段階で子持勾玉と臼玉を使った祭祀をして盛土を施す。また，墳頂部で古式土師器甕片が検出されたことから，墳丘築造後に再度祀りを行った可能性もある。１号墳は旧表土面上に石棺を組み立て，石棺本体部分まで盛土した段階で堤瓶を供えて祀りを行っている。３基の埋納形態がそれぞれに違うことがどのような理由によるものかは定かでない。今後の検討課題である。

(3) 築造時期について

いずれも出土遺物は少ないが，１号墳については石棺内出土高坏から見ると，その手法の特徴から６世紀の後半に考えられる。２号墳については，石棺内出土土器はなく，墳頂部出土の古式土師器甕片しか手がかりがないが，これをもって考えると，口縁部の特徴から小谷式から大東式の過渡期と考えられるが，ほかに本墳の墳丘出土遺物として弥生土器も出土しており，一概に土器をもって築造年代と断定することは難しい。また，子持勾玉については，大平茂氏の論考によればＡ型１類のⅡ－１型式に属し，５世紀後葉のものであると考えられ，この時期をもって本墳の築造年代とするのが妥当に思われる。１号墳については，石棺内出土遺物としては鉄鏃のみであり，手がかりとなるものは周濠中出土の土器しかない。周濠中出土遺物としては，古式土師器高坏と須恵器甕があり，須恵器坏身も含まれるが，築造時期としては５世紀後葉と考えられる。２号墳と３号墳の新旧については断定が難しいが，古墳の立地から考えると，標高が高く眺望の最も優れた占地をする３号墳が先行し，時期差を開けずに２号墳が築造され，約１世紀後に１号墳が築造されたものと考えたい。

第8表　島根・鳥取子持勾玉出土地一覧表

島根県

遺　跡　名	所　　在　　地	数量	備　　考
二名留2号墳	松江市乃木福富町	1	主体部墓壙検出面出土
金崎一号墳	松江市西川津町	2	竪穴式石室内出土
出雲玉作跡	八東郡玉湯町	1	住居跡出土
岩屋口遺跡	安来市佐久保町	1	住居跡出土

鳥取県

遺　跡　名	所　　在　　地	数量	備　　考
真名遺跡	岩美郡岩美町真名	1	川床出土
青島遺跡	鳥取市高住字青島	3	他に有孔石製板
日光坂遺跡	気高郡気高町矢口字日光坂	1	
浜村遺跡	気高郡気高町浜村	2	
高辻遺跡	東伯郡東郷町高辻字清水屋敷	1	2個連結式
東郷出土	東伯郡東郷町	1	倉吉－松崎間路上
福積遺跡	倉吉市福積	1	
大栄出土	東伯郡大栄町	1	
宮前田遺跡	東伯郡東伯町槻下字宮前田	1	
御来屋遺跡	西伯郡名和町御来屋	1	
平遺跡	西伯郡大山町平字大谷尻	1	
長田遺跡	西伯郡大山町長田	1	
日下遺跡	米子市日下	1	
福市遺跡	米子市福市字吉塚	1	吉塚23号住居跡出土
泊村出土	東伯郡泊村石脇字堀	1	
研石山遺跡	米子市新山萱原	1	住居跡出土

5．小　　結

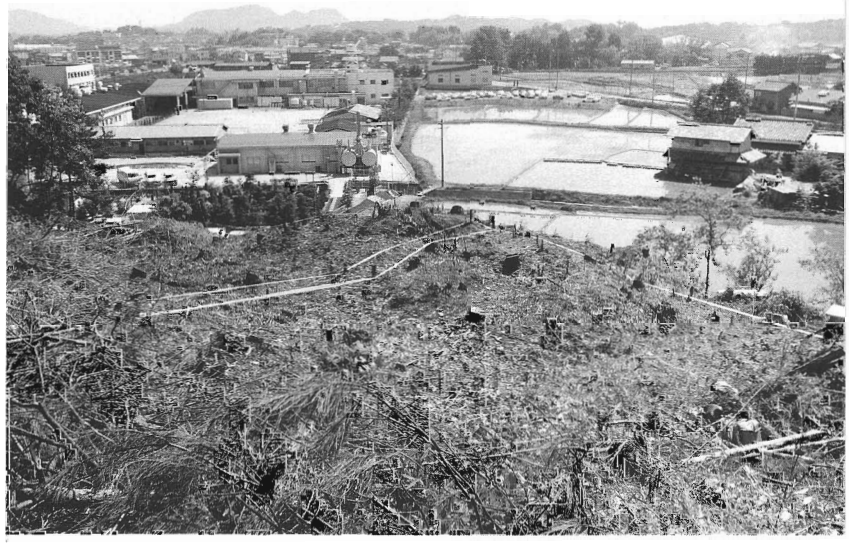
調査の結果，本古墳群は古墳時代中期後葉から後期中葉にかけて築造された古墳群であることがわかった。本群中３基全てに来待石製の箱式石棺を納め，しかも全て頭位を南に置くことなどから，同一系統の豪族によって築造されたものと考えられる。また周辺地域を見渡すと，玉湯川，忌部川両流域では花仙山産出の碧玉，めのうを使った玉作りが盛んに行われており，本古墳群の存在する丘陵の北方約500ｍの地点には，玉作り工房跡が発見された大角山遺跡が知られている。また，本群中２号墳の石棺内からは枕部分に玉髄質めのうが使われていることなどから，本古墳群の被葬者は玉作りに深くかかわった人物で，本地域において権力を持つ人物であったであろうことがうかがわれる。

註１．本遺跡出土の石材，砂の材質及び組成については，すべて国立島根大学教育学部教授三浦 清氏の御教示を頂いた。
２．註１に同じ
３．註１に同じ
４．註１に同じ
５．大平　茂「子持勾玉年代考」（『古文化談叢第21集』　1989）
６．米子市教育委員会社会教育課主任杉谷愛象氏に御教示を頂いた。
７．島根県教育委員会文化課埋蔵文化財第２係長卜部吉博氏に御教示を頂いた。

図　　版

1.　１号墳遠景
（昭和54年当時，東より）

2.　１号墳近景（南西より）



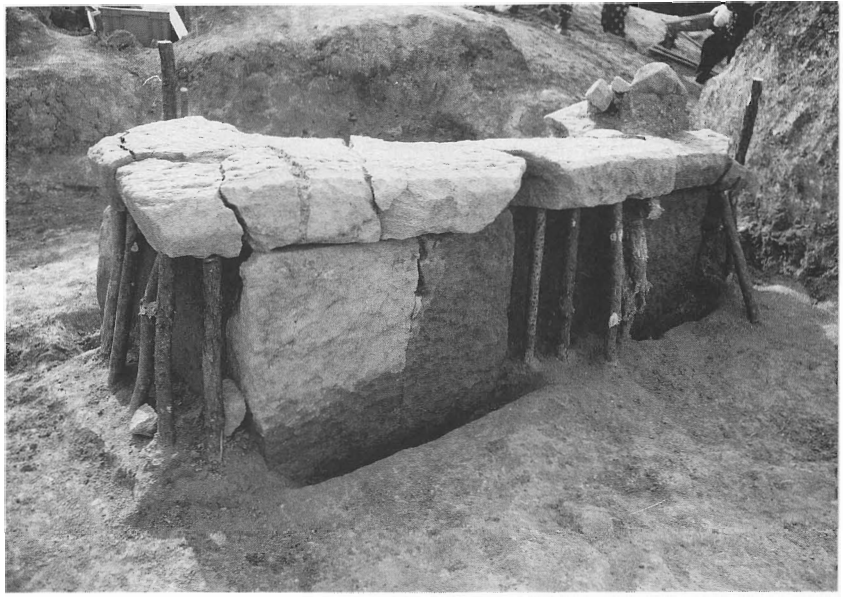
3.　石棺露出状況（東方より）

4. 墳丘断ち割り状況

5. 提瓶出土状況

6. 石棺近景（南西より）

PL－3



7. 石棺近景（南東より）

8. 石棺近景（北西より）

9. 棺内短刀出土状況

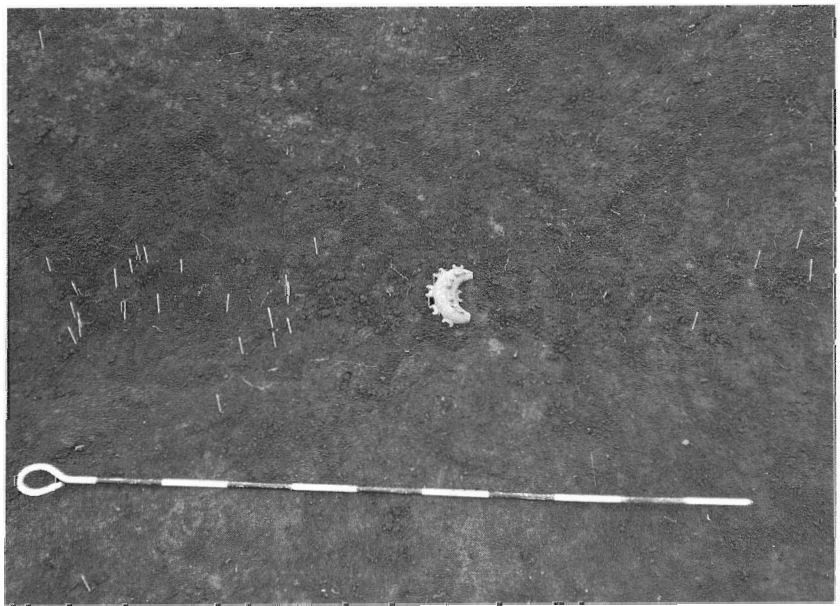
10.　2号墳調査前近景
（平成3年）

11.　東側周濠検出状況

12.　南側周濠検出状況

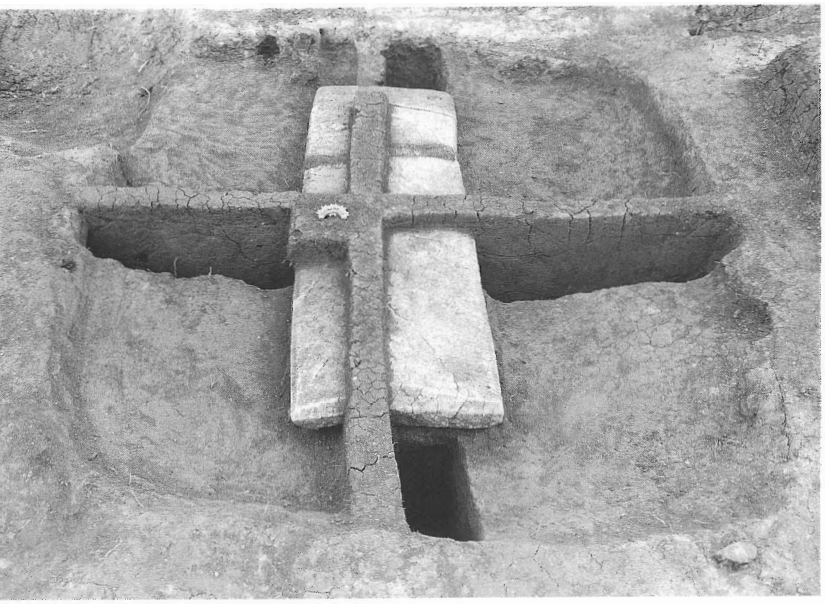
13. 北側墳据土器出土状況

14. 墓壙検出状況（南より）



15. 子持勾玉出土状況
（竹串は臼玉出土地点）

16. 子持勾玉近景



17. 石棺蓋石検出状況
（南より）

18. 石棺蓋石，子持勾玉位置
関係

19.　石棺蓋石状況（南より）

20.　蓋石接合部状況（東より）

21.　蓋石開棺状況（北より）

22. 白砂面検出
状況（北より）

23. 礫床面検出状況
（北より）

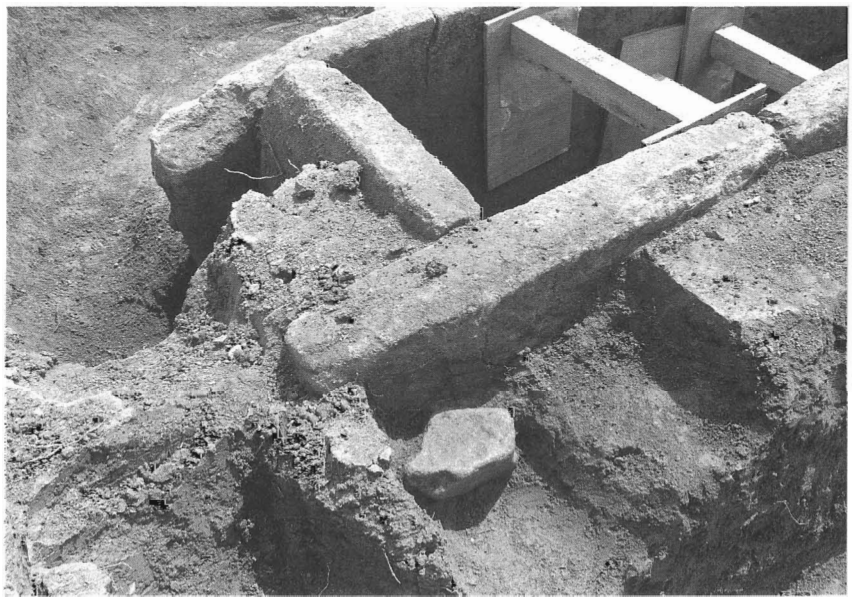
24. 石棺内状況

25. 石棺南小口部

26. 南東部棺材固定用石材

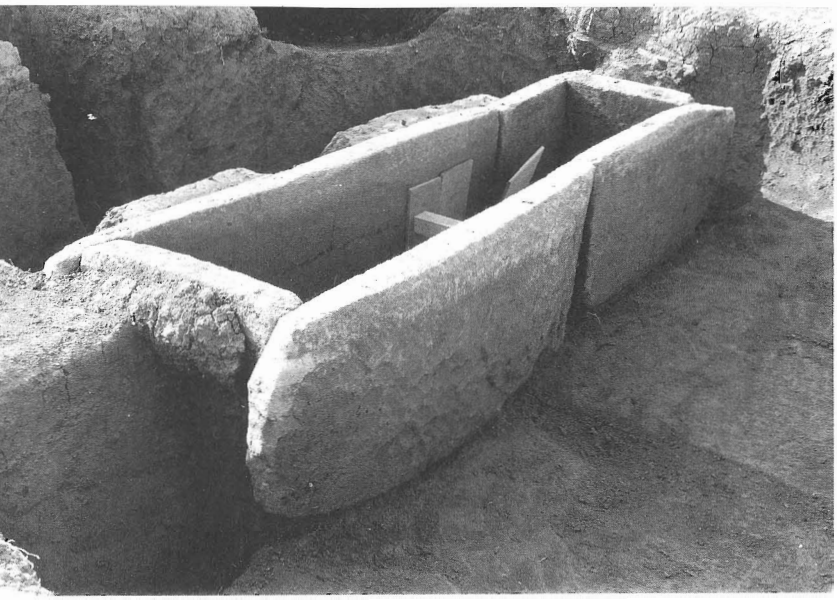
27. 南西部棺材固定用石材

28. 北東部棺材固定用石材



29. 北西部棺材固定用石材

30. 礫床除去後（北より）

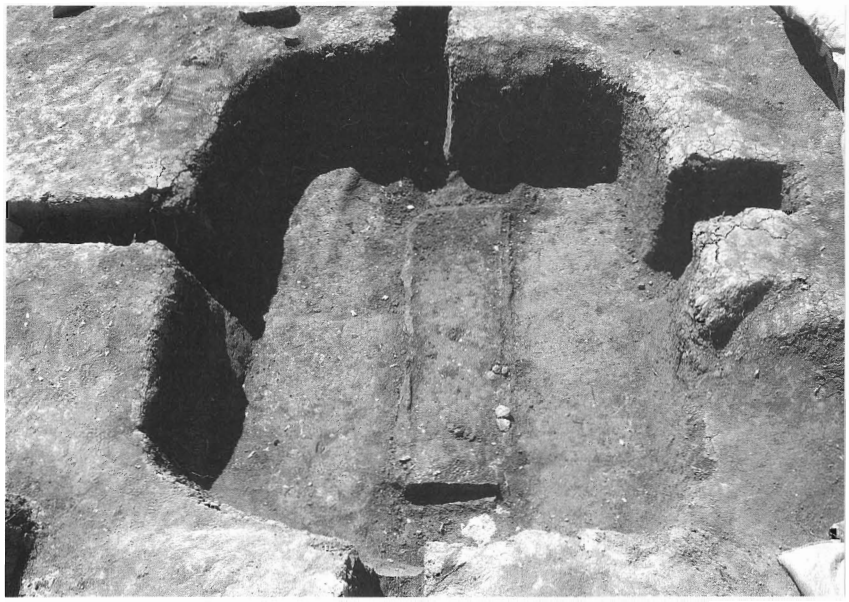


31. 東側板状況

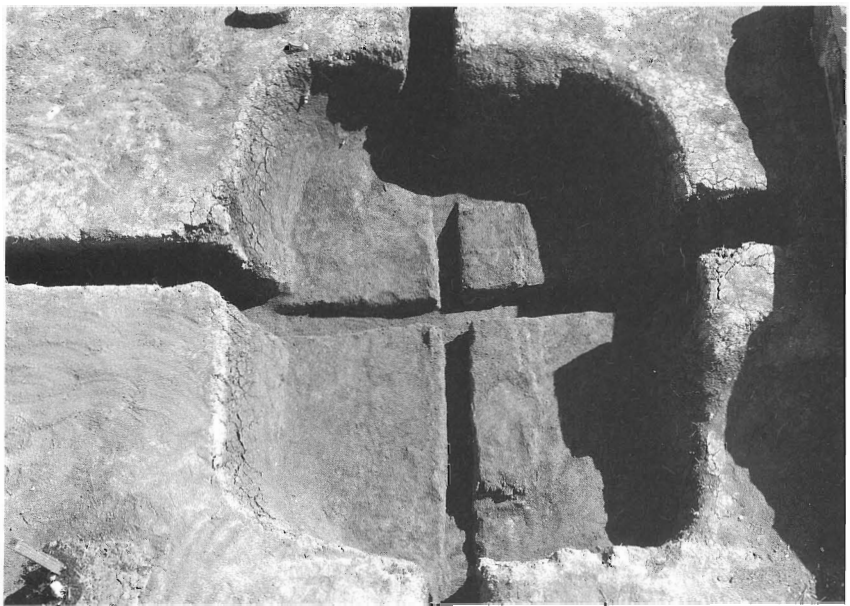
32. 東側板ノミ痕

33. 西側板接合部
（側板下は詰石）

34. 西側板下詰石



35. 石棺除去後（北より）



36. 墓壙断ち割り（北より）

37.　3号墳調査前近景
（昭和63年当時，東より）

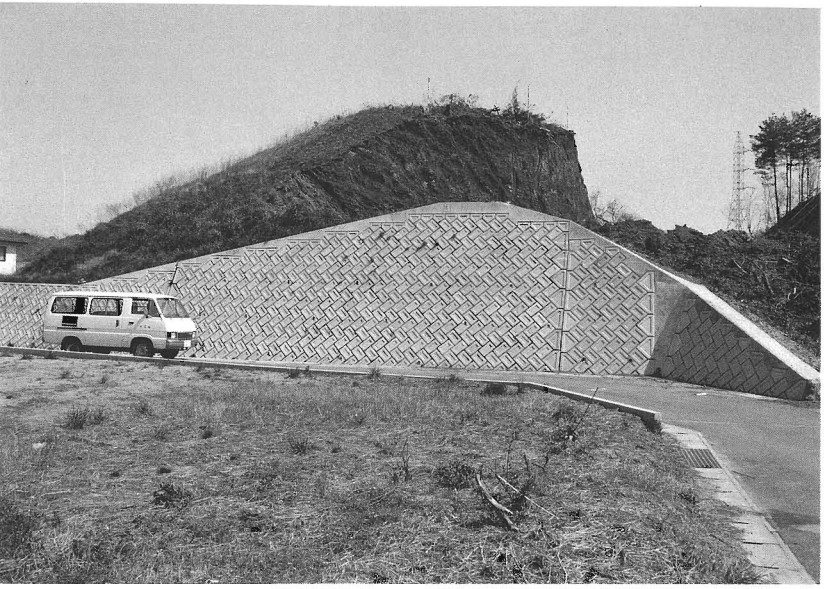
38.　3号墳調査前近景
（南より）

39.　墳丘状況（西より）

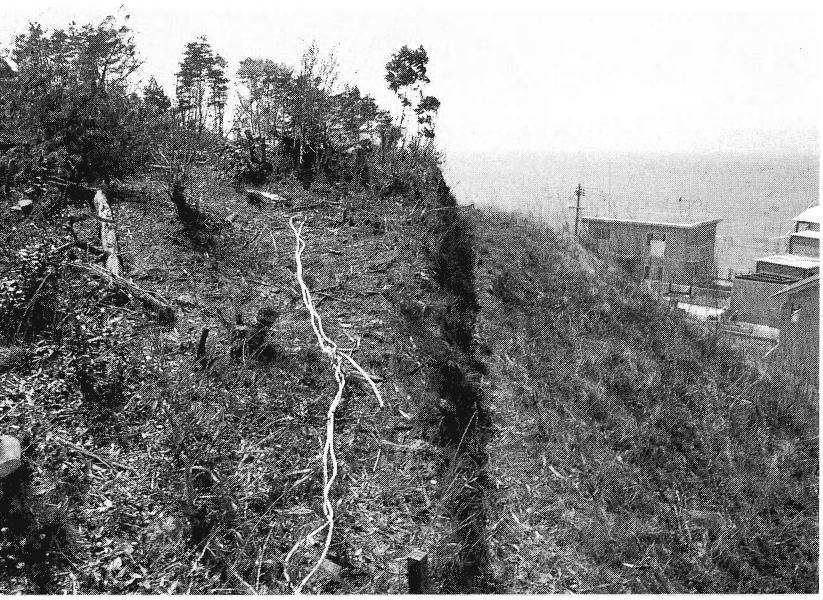
40. 墳丘状況（東より）

41. 周濠北西部堆積土層状況
（竹串は土器出土地点）

42. 周濠北西部土器出土状況



43.　3号墳調査前近景
（平成3年，西より）



44.　3号墳調査前近景
（東より）

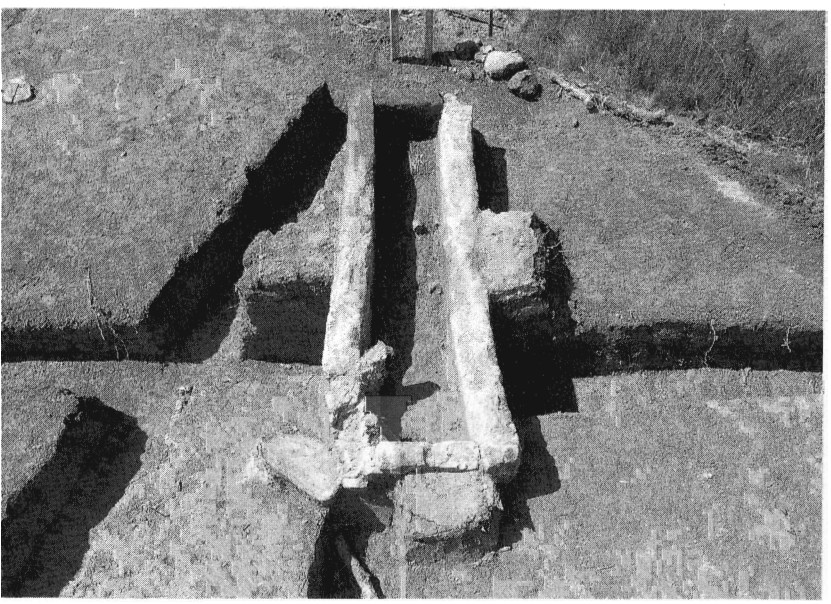
45.　周濠南東部検出状況
（南より）

46. 周濠南東部土器出土状況
（東より）

47. 石棺検出状況（南より）

48. 石棺南東部短刀出土状況
（東より）

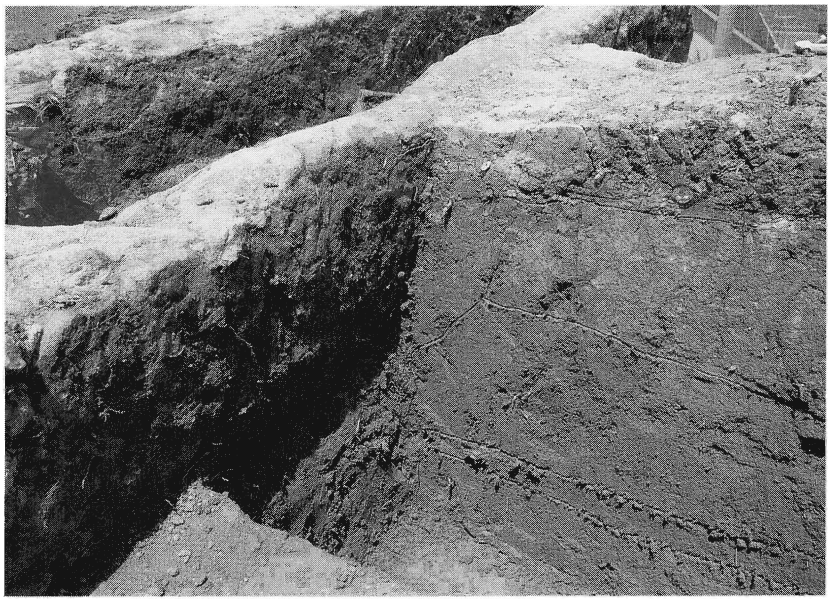
49. 石棺北側鉄鏃出土状況



50. 石棺内完掘状況（南より）

51. 石棺内完掘後（南東より）

52. 石棺南側粘土状況



53. 石棺東側粘土状況

54. セクション除去後
（北西より）

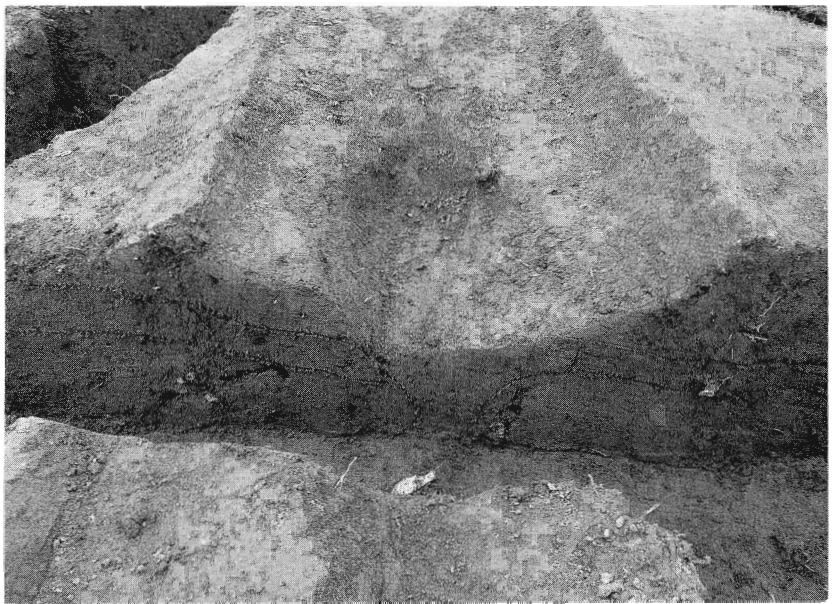
53. セクション除去後
（南西より）

56. 南小口板

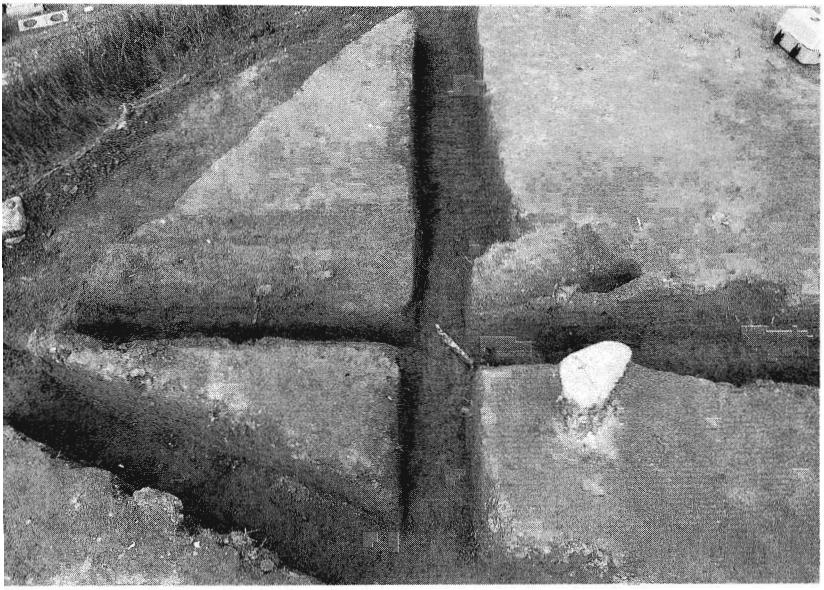
57. 北小口板

58. 石棺除去後（南より）

59. 石棺下掘り込み断面
（南より）



60. 石棺下断ち割り状況
（南より）



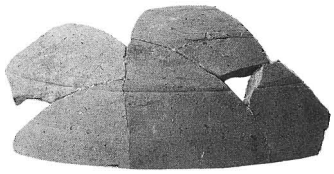
61. 石棺下断ち割り状況
（西より）

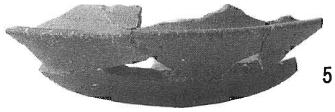
62. 完掘状況（南西より）

63. 完掘状況（南東より）

1

2


3


5

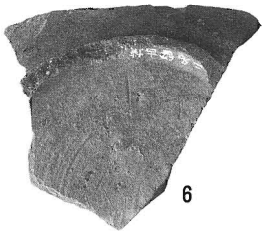
7

8

9

10

11


6

12

13

14

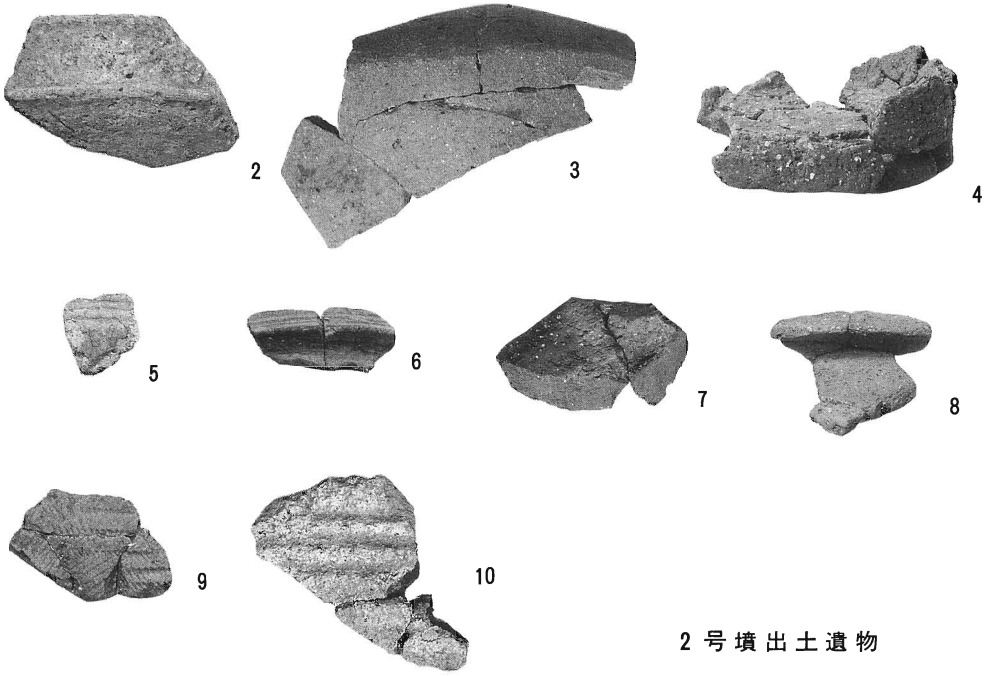
15

16

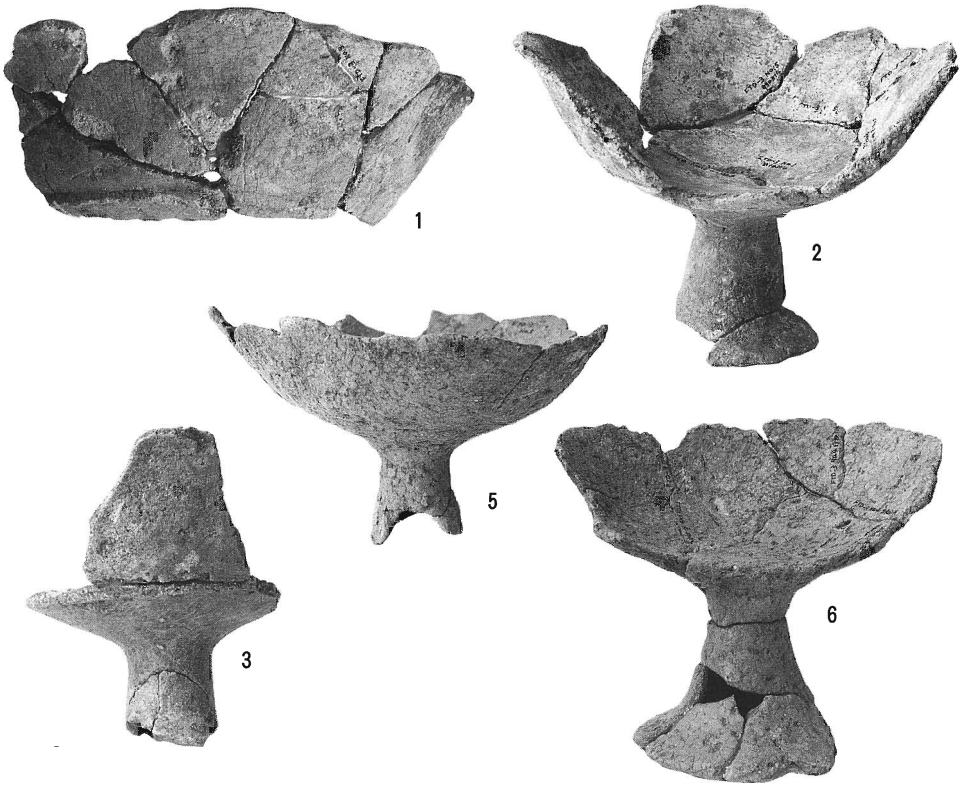
17

18

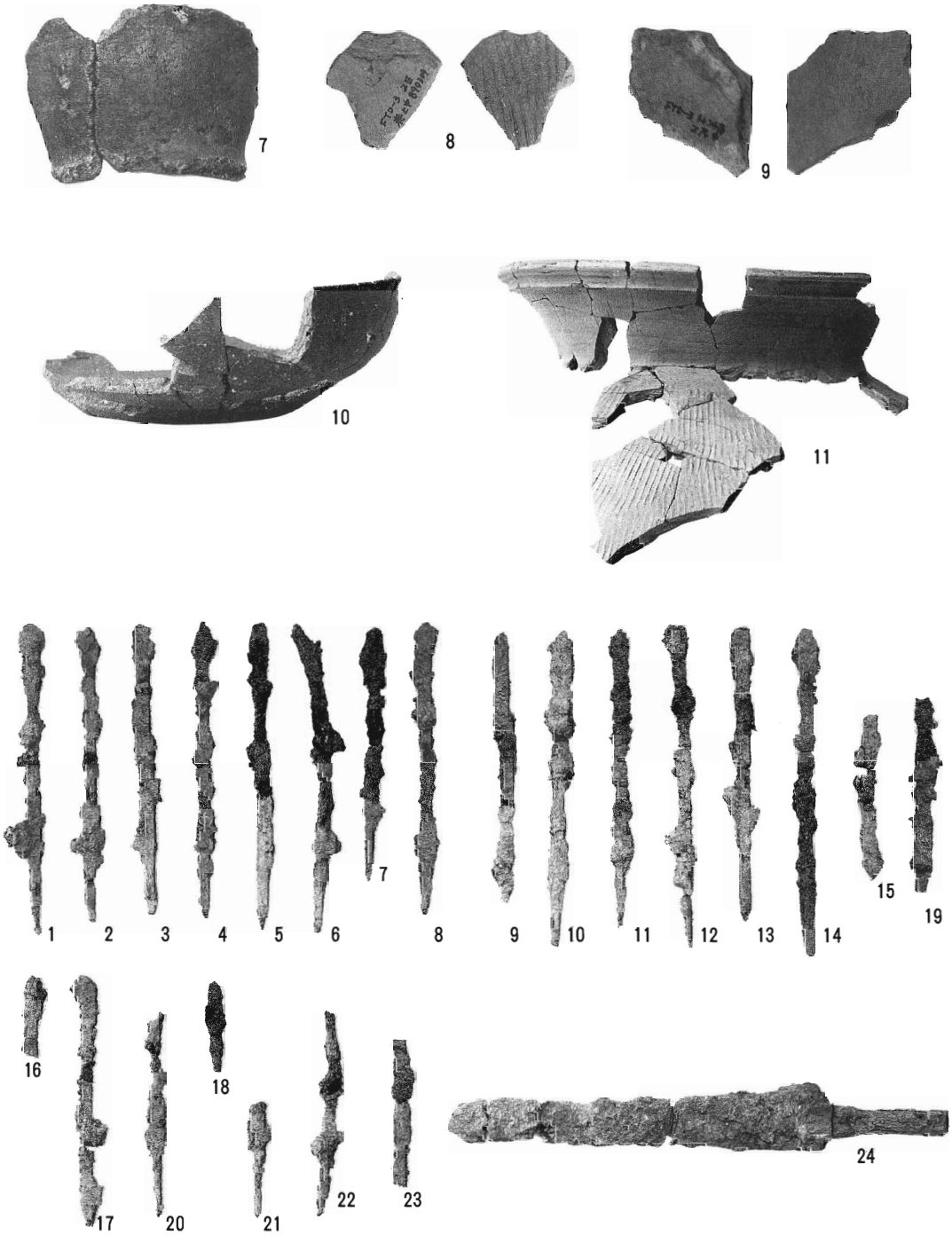
1号墳出土遺物



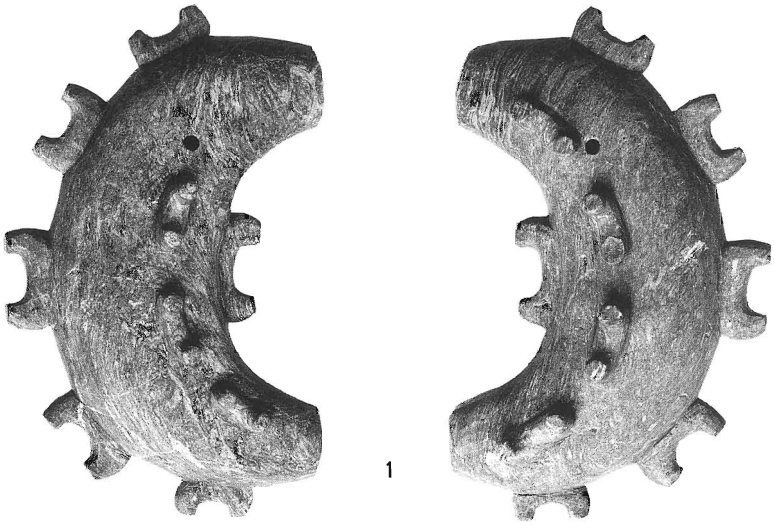
2号墳出土遺物



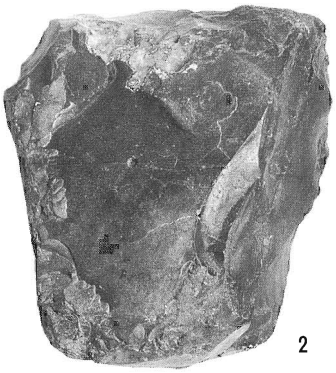
3号墳出土遺物



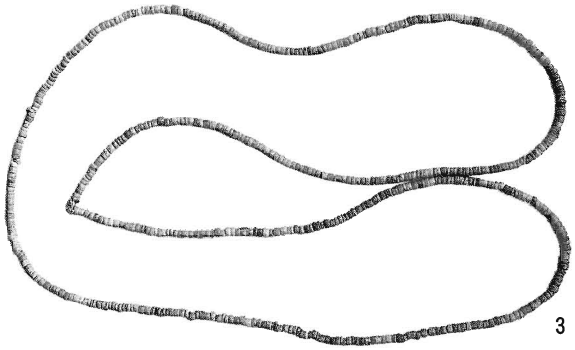
3号墳出土遺物



1



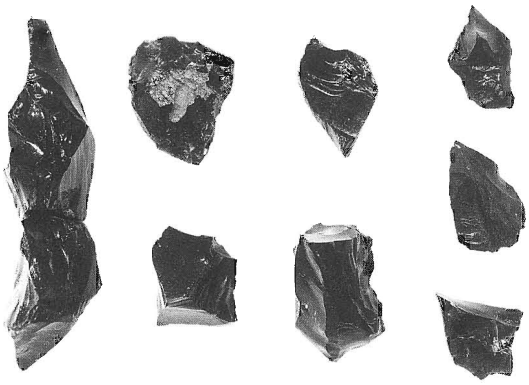
2



3

11

12



東側墳裾出土黒曜石

2号墳出土遺物

二名留古墳群発掘調査
報　告　書

1992年３月

発　行　　松江市教育委員会

印　刷　　有限会社 谷 口 印 刷
松江市母衣町89